

発刊50号

JS研修

みずのわ



— 研修受講生 7万人達成記念号 —



地方共同法人

日本下水道事業団

Japan Sewage Works Agency

研修センター

◆ 巻 頭 言

「知行合一」	畑 田 正 憲	日本下水道事業団 理事	1
--------	---------	-------------	---

◆ ごあいさつ

「新たなステージへ ～進化しつづける研修を目指して～」	細 川 顕 仁	日本下水道事業団研修センター 所長	2
-----------------------------	---------	-------------------	---

◆ 特別インタビュー

(聞き手 細川所長)	澤 井 敏 和	東京都あきる野市長	3
------------	---------	-----------	---

◆ 特別寄稿

歴史を繋ぎ、人を紡ぐ	寺 澤 薫	宮城県七ヶ浜町長	5
------------	-------	----------	---

◆ 特集「研修修了生7万人達成を祝って」～あの頃・あの時・今は～

発足～1万人	日本下水道事業団研修センターの思い出	佐々谷 明 光	京都府長岡京市副市長	6
1万人～2万人	JS研修の思い出 みずのわとひとのつながり	長谷川 明 巧	大阪府下水道室長	6
2万人～3万人	JS研修の思い出について 「JS研修での出会い」	原 田 忠 明	広島県廿日市市副市長	7
3万人～4万人	「人と人とのつながりに感謝して」-祝 研修生7万人達成-	向 井 一 裕	大阪府堺市上下水道局下水道部長	8
4万人～5万人	「研修がつなぐ人の輪」	星 博 文	福島県南会津町建設課主任主査	9
	「穂積と山田」	長 沼 輝 伸	岩手県下水道公社工務課長	10
		石 山 悟	山形県米沢市上下水道部下水道課長	11
		穂 積 千 絵	福岡県土整備事務所 都市施設整備課	12
		山 田 恵	佐賀県基山町	13
	山口みずのわ会 ～おいでませ山口へ～	友 景 康 浩	山口県防府市都市計画課主幹	13
5万人～6万人	日本下水道事業団研修が繋ぐもの	山 田 千 尋	滋賀県琵琶湖環境部下水道課主査	14

◆ ～教授等 OB～

研修生7万人は通過点 「祝研修生7万人達成」	安 彦 四 郎	(元) 助教授 (現) TGS サポート倶楽部	16
	村 井 直 樹	(元) 助教授 (現) TGS サポート倶楽部	16

◆ ～講師等 OB～

遠い昔の思い出 日本下水道事業団研修を3回受講して JS研修と私 「講師25年、人脈こそ宝」	柏 瀬 保 夫	(元) 栃木県足利市上下水道部主幹	18
	岡 本 久 年	(元) 埼玉県蓮田市下水道課長	19
	土 屋 誠	埼玉県新座市栄公民館長	20
	大 鹿 純 一	埼玉県下水道公社中川支社副支社長	22

◆ 特別座談会

～兄弟同時研修受講記念～	研修生 5名他		24
--------------	---------	--	----

◆ 同窓会ニュース

第23回「外崎会」東京都あきる野市で開催 「宮山福会」の輪 新たな地でさらに広く、さらに深めて 「さいと会」～歴史や文化に触れながら～ 『熊本会』から『みずのわ』への繋がり～ 「福岡みずのわ会」	木 内 鑑 生	(元) 秋田県秋田市総務部長	30
	青 木 勝 弘	福島県須賀川市産業部商工労政課技査	31
	松 島 修	東京都下水道サービス(株)施設管理部長	32
	岡 本 吉 弘	熊本市上下水道局計画整備部計画調整課長補佐	33
	溝 口 憲 太	福岡市道路下水道局計画部道路計画課	34

◆ 退任教官紹介

研修に想いを馳せる	太 田 秀 司	(元) 教授 (現) 日本下水道管路管理業協会	36
-----------	---------	-------------------------	----

◆ 新任教官紹介

	生 沼 裕	教授 (兼 上席審議役)	37
	中 村 芳 男	教授	37
	川 島 正	教授	38

◆ JS研修トリビア

第1回 数にまつわるお話			39
--------------	--	--	----

◆ 研修センター職員等紹介 (写真)

JS研修センター、(一財)下水道事業支援センター、食堂			40
-----------------------------	--	--	----

◆ 下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について

			41
--	--	--	----

◆ 平成29年度研修実施計画

			43
--	--	--	----

◆ 研修センターのあゆみ

			44
--	--	--	----

◆ 編集後記

			45
--	--	--	----

『みずのわ』の名前の由来・・・

滑らかな水面に落とした一滴のしずくが、つくる小さな輪が大きく広がる様から、研修生の輪が一人から全国へ、一都市から全国の都市へと大きくなつていくように、との期待を託したものです。

巻頭言

「知行合一」

日本下水道事業団

理事 畑田 正憲



平成26年度の運営補助金廃止に伴い、研修受講料の大幅な値上げを行わざるを得ない状況となりましたが、平成26年度は前年度の約7割の2,164名、平成27年度には2,307名の方が受講され、今年度も若干の増加傾向となっています。これは、各地方公共団体のご理解とご協力を始め、全国市町村振興協会の中で現在13県の市町村振興協会から研修受講料を助成して頂いていることも大きく影響しているものと考えております。改めて心より感謝申し上げます。

さて、「知行合一」とは陽明学の命題のひとつであり、吉田松陰の私塾「松下村塾」の掛軸に掲げていた名言として良く知られています。一方で、朱子学には「先知後行」という学説があり、両者には「知」と「行」に対する順序、軽重の程度と二つの概念についての分離性、一体性に違いがあると言われています。

つまり、前者が知識と行為は一体であり知は実践を伴わなければ意味がないと捉えているのに対して、後者はまず理論を知りその後に行うという考え方であると解説されています。

当研修センターでは、実務・実践とのために必要な知識は一体であり、研修とは学びながら並行して実践されて行くものと考えています。このため、技術基準や指針を講義するだけでもできる限り実習・実演を通じて模擬的な実践を体験していただけのカリキュラムを組むこと

としています。

ただそれだけでは多くの研修機関とそれほど大きな違いはありません。私は、「知」と「行」を一体として繋ぐため、人と人の中で「伝える」「感じる」「思う」など意識の介在について認識する必要があるのではないかと考えています。

人は誰でもそれまでに体験した部分的な知識しか持っていません。形式的に与えられる知識、模擬的な体験を通じて得た知識のほかに、人と人の相互の関係から主体的に習得した知識こそ真の実践に通じるものだと考えられ、受講生が相互に触れあうコミュニケーションの中で互いに学び合い、実践における状況対応力が形成されていくものと想像されます。

現在、研修センターでは老朽化・陳腐化対策に併せて女性受講者の増加への対応や浴室など寮生活を快適に過ごしていただくために施設の再構築について検討しています。その中で、開講以来4人を一つのグループとして研修寮室内で滞在するいわゆる合宿方式を採ってきました

が、この方式はJS研修の大きな特徴となっていることを踏まえ、研修仲間の交流の場として「知行合一」の実現を図りつつ、

受講される方々のプライバシーやアメニティーにも配慮した計画となるよう検討して行きたいと考えています。



「みずのわ」

「新たなステージへ

（進化しつづける研修を目指して）

日本下水道事業団 研修センター

所長 細川 顕仁



平素より日本下水道事業団（JWS）の実施する研修に対し、格別のご理解とご協力を賜り、御礼申し上げます。平成28年4月に研修センターへ所長として参りました細川と申します。どうぞよろしく願います。

私はJWSのプロパー職員ですが、今回が初めての研修センター勤務となります。これまでが、今回事務所、総合事務所、設計センター・旧支社、本社と、JWSで言うところの「受託業務」を主に担当する部署を回ってききました。その中で日本各地の地方公共団体の職員の方と接する機会が度々あったのですが、多

くの方が「〇年前に戸田の研修所に行ったよ」とおっしゃってくれ、かつその殆どが研修に対して高い評価を下さっていました。私自身もJWSへ入社して最初の3年間は毎年ここで研修を受けて、今に至る下水道技術や、そして何よりも「下水道ファミリー」の一員としての基礎を築いてもらい、大変感謝しております。この恩に報い、そして皆様方から高評価を継続していただけのように、また「下水道ファミリー」を一層広げていけるよう、研修業務の企画・実施に精一杯取り組んでいく所存でございます。

さて今年度は色々な意味で節目の年になりました。研修受講者数が7月に7万人を突破し、また、本誌も昭和49年1月の創刊以来、今回で50号の発刊となりました。ということとで今回の「みずのわ」は、記念号として今までよりも内容を濃くしたつ

もりですので是非お楽しみください。

節目という意味では、12月に研修センターの施設の再構築中長期計画を策定しました。これは今年度から平成48年度まで約20年間の計画で、この計画に基づきこれから老朽化施設の更新・再構築等を行っていくこととなります。計画の名称を「保全」や「更新」等にせず「再構築」としたのは、単なる老朽化対策だけではなく、これからの研修の方向性がある程度想定し、新規に整備するものや拡充していくものも内容に盛り込んだからです。

下水道事業やそれを取り巻く環境は常に変化しており、ここで求められる研修内容も変化しております。それらを常に意識し、地方公共団体の「今の」方々にとって魅力ある研修を実施していきたいと考えております。その一方で、「古き良き」研修は守っていかなければなりません。設計・施工・管理・経営のそれぞれのフェーズで基礎となる研修、それから研修生自らが頭を働かせ身体を動かす演習・実習などです。

研修受講者数10万人の達成、「みずのわ」100号の発刊に

向けての新たな一步を今踏み出しました。守るべき伝統・基礎と新たな技術・知見等をベストミックスした研修の企画・実施

に努めてまいりますので、引き続きJWS研修に対するご協力とご支援をよろしく願います。



特別インタビュー

澤井敏和あきる野市長

インタビュー

(聞き手…細川研修センター所長)

○細川所長 本日はお忙しいところお時間をおとりいただきありがとうございます。市長

さんは30年以上前にJ.Sの研修へ参加されたそうですが、本日は研修にまつわる思い出などをお話いただければと思いますので、よろしくお願ひします。

○澤井市長 こちらこそよろしくお願ひします。J.Sの研修は私にとって大切な思い出であり、かけがえのない仲間ができた場でした。今日、インタビューがあるということで昔の写真をお持ちしました。



これが当時のメンバーです。

先生は、東京都から出向された外崎さんでした。これを機に「外崎会」という会を結成して、今も同窓会を続けております。

○澤井市長 (写真帳を開いて)

これが当時の部屋の写真です。

○細川所長 まだ2段ベッドの時代ですね。

○澤井市長 そうです。こういう仲間、特に夜は様々な意見交換をして、寝食を共にして本当に仲良くなりました。当時の研修施設は今も使われているのですか？

○細川所長 (研修施設紹介のパンフレットを開いて) これが今の研修施設です。管理本館など昭和の時代から使っているものもあれば平成に入ってから新たに建てたものもあります。

○澤井市長 こんなにきれいになり、実習棟もできたんですね。

○細川所長 J.Sの研修の特長

であり強みは実習や演習に重きを置いていることです。

○澤井市長 この写真は、コンクリートの圧縮試験です。(パンフレットをめくりながら) 当時、水質実習は、プレハブの建屋でやっていた記憶があります。女性の方も多く参加されているのですか？

○細川所長 最近が増えていきますね。多いものでは15%くらい女性というコースもあります。次にJ.S研修でできた楽しい仲間との同窓会である外崎会についてお聞かせください。

○澤井市長 私の受けた研修の参加者にはいわゆる「つわもの」が多かった気がします。同窓会も、ある時「よし、みんなで同窓会をつくらう」ということになり始まりました。毎回、幹事を持ち回り決めて、全国各地で開催してきました。「みずのわ」にも十数回目まで、同窓会の報告を載せていました。仕事の都合等で参加できなかった幹事さんには、「来年、この辺りにいくから」と伝えたりしておりました。

○細川所長 すごいですね、30年以上も続いているんですね。

○澤井市長 14回目の時でした

か、神奈川県相模原市で開催した際、仲間が記念にテレホンカードを作ってくれたこともありました。(写真を懐かしそうに眺めながら)局長、消防総監、課長、皆さんその後、偉くなられて、親族の会社を継いだ方、物書きになられた方・・・古代蓮の種を育てて開花させて、命名した方もいます。「印南蓮」で検索するとその方が出てきます。

○細川所長 まさに多士済々ですね。

○澤井市長 残念ながら亡くなった方もいらっしゃると思います。そういう場合は、研修期間中に初めてのお子さんが生まれた北海道の方もいました。当然、ご本人は帰りたいと申し入れたのですが、先生は帰らせてくれない。そこで皆で「帰っちゃえ」「下水道だから名前は道子にしろ」などと勝手なことを言っていました。

○細川所長 お話は尽きませんが、研修から少しはなれて、市長さんの下水道に関する思い出をお聞かせください。

○澤井市長 忙しくて下水道にどっぷり浸かっておりまして。昭和50年代、整備をどん

どん進めろという時代で、入所して初めから残業続きで、朝3時ごろまで仕事した後、先輩に送ってもらい、家に帰って、風呂に入って、うとうとすると、もう出かける時間になっていました。当時、冷房などありませんでしたから、暑い時期は、バケツに足を入れて図面を描いてました。昔は標準図などなかった

ので、皆でセクションごとに立坑の計算をしたり、鏡切りの計算をしたり、そういうことをやっておりました。代価表から分厚い設計書も作っていました。また、一定金額以上の工事は、必ず議会にかけ

るため、すい進工事を発注しようとする必ず議会の議決を経るので大変でした。

○細川所長 殆ど直営だったんですね。

○澤井市長 そうです。皆「土木屋」ですから、委託して、受託者へいろいろと説明するよりも自分たちでやった方が早い。計算もタイガー計算機を使っていました。電卓なんて高くて買えない。青焼きも、

図面を焼くのはアンモニアを皿の上に乗せて、温度板の上に乗せて、それでアンモニア

を発酵させてから、図面をその中に入れて作っておりまし
た。金抜きは、カーボンを入
れて描くわけですが、6、7
枚しか写らないので、数が多
いと作るのが大変でした。そ
れから、湿式の機械が入った
時も便利にはなりませんが、
今のコピー機と違い手間はか
かりました。設計書を焼くと、
設計書はペラペラなので機械
の中に入って、びっしょりにな
って、だんだん黄色くなっ
てしまったりして。地元説明
会での資料は、鉄筆でガリ
切って、それで印刷にかけて
ました。印刷といっても、謄
写版で、乾かして配る、そう
いう時代でした。私が役所に
入所したのが昭和48年のオイ
ルショックの時代でしたの
で、物価上昇がすごくて、1
回工事を出すと3回ぐらい設
計変更しないと単価がもう合
わないということもありまし
た。管更生の走りのようなこ
ともやってました。

○細川所長 市長さんが現役の
頃に管更生ですか。今は脚光
浴びていますが当時はそうで
もなかったのでしょうかね。
○澤井市長 光や熱で硬化する
のがあります、上手に施工

しないと変なところにしわが
寄ってくるんです。だから、試
エアーで膨らましながらか、試
行錯誤しながらやってまし
た。それからテレビカメラを
使った管路内の調査もやりま
した。今は性能も格段によく
なっているようですが、当時
は、スチールのメジャーをテ
レビカメラにつけて、カメラ
だけ自動で走行するというも
のでした。真つ直ぐだとい
いのですが、取り付け管など真つ
直ぐではないので、合わなかつ
たり返していました。今は、様々
な機器や装置などが開発され
て便利になりました。パソコ
ンがあれば大抵のことはでき
ます。図面もCADで描いて
くれますし、積算や計算も
やってくれます。ただデータ
の入れ間違いは怖いです。簡
単に間違える可能性がありま
すし、結果が出力されて、初め
て誤りに気付きます。気付い
ばいいのですが、どこがおか
しいかも分かりにくくなっ
ているのではないのでしょうか。

○細川所長 市長さんの「下水
道」それから「技術」に対す
る熱い思いが伝わってきま
す。最後にJSSの研修に対し

て今後期待することをお聞か
せ下さい。

○澤井市長 「下水道」なら「下
水道の本当の技術屋」を養成
してほしいです。下水道は整
備が進み、これから更に技術
者は少なくなっていくのかも
知れませんが、やはり、その
セクションの研修を実施する
なら、「本当の技術屋を養成
する」ということが必要な
と思います。また、特に技術
屋さんですの、「人の嫌が
る仕事ができる技術屋を育成
してほしい」というのが一番
思うことです。様々な便利な
道具や機器がでてきて、パソ
コンを使ってみて思ったこと
ですが、「使っている」のか「使
われているか」よくわからな
いのではないかと。システム
を全部理解しなくてもいいの
で、本当に基本的なことを理
解した上であれば、元へ戻れ
ると思うんです。今の技術屋
さんは、元に戻れないのでは
ないかなと思うんです。基本
や基礎を理解することは、重
要で、大切にしていたくださ
い。それと「自分の体は全て
寸法を知れ」と申し上げたい。
目線の位置、足の歩幅、それ
から指が何センチあるかな

ど、現場で、「自分の目線の
高さから見たて、こんなに上
がっているのをおかしい」と
現場でわかる。自分の歩幅を
知っていれば、遊びにも利用
できます。例えばゴルフに行っ
て、カップまでののくらいか
なというとき、カップまで歩
いて、「大体何メートルだから
強さはこれくらいかな」とな
ります。現場に行ったときに、
我々は歩いてみると、「ああ、
これだけあるな」と分かりま
す。当時は、「自分の体は何
センチなのかよく知っておけ」
ということを言われてきまし
た。そういうことを技術屋さ
んがよく知っていると強いと
思います。街や現場を歩いて
も大体目の位置で色々分か
りますから。「絶対ここに水が
集中してしまう」「街渠の勾
配をなぜこうしたのか」「何で
こんなところに街渠ますつけ
るのか」など、そういうこと
ろが多いですよ。

○細川所長 本日は色々な貴重
なお話ありがとうございます
た。これからも引き続き下水
道事業、JSSそれからJSS研
修へのご理解とご協力を賜りま
すようよろしくお願います。

(聞き手より)当初予定してい
た時間を大幅に超過して、JSS
研修や仲間との思い出から下水
道事業や技術者への熱い思いま
で沢山お話いただきました。澤
井市長からの期待に応えるべく
本場の技術者の育成へ真摯に取
り組んでいかねばという想いが
強くなるとともに、お話を伺う
中で「私は本当の技術屋か？」
ということを常に自らに問いか
け精進し続けたいと決意を新た
にしました。なお、最後になり
ましたが、誌面の都合上、市長
のお話を紹介できなかつた
ことを深くお詫びいたします。



特別寄稿

歴史を繋ぎ、人を紡ぐ

宮城県七ヶ浜町

町長 寺澤 薫



はじめに、研修会報「みずのわ」発刊50号、そして研修生7万人達成、誠におめでとうございませう。研修センターを巣立った多くの仲間たちが全国各地で活躍し、各地域で「みずのわ」が生まれ、その輪が広がっていることを想うと、研修生OBの一人として大変うれしく思います。

さて、これまでも、機関誌「みずのわ」に度々登場した「宮山会」。宮城・山形の研修生OB、そして事業団、渡邊良彦、青木実両氏を軸として、全国から駆けつける仲間たち。この会も、今年で23回を数え、3年前からは福島県須賀川市、郡山市も加

すが、東日本大震災では最大12・1mの津波が襲来し、町域の約4割が浸水するなど甚大な被害を受けました。

震災後は、全国からのべ8万人を超えるボランティアの方々や100名を超える他自治体からの応援職員など、国内外問わず多くのご支援、ご協力を賜りました。感謝！

おかげさまで、高台住宅移転や災害公営住宅が完成し、復興事業も一つの区切りとなり、今、町は新たなまちづくりのステージに踏み出そうとしております。

私は、町の復興は、子どもたちの未来をも見据えたものでなければならぬと考えています。それは「ひとつづくり」であります。

その想いは、本町の子どもたちに、未来を生き抜く財産をつけてあげたいと考えています。その取り組みの一つとして、いま進めているのが英語を通じたコミュニケーション能力であります。

七ヶ浜の子どもたちに未来を生き抜く力をつけてほしい。その願いから、英語をツールとしたグローバル人材育成プログラムの取り組みを

始めました。

下水道事業団研修センターも、まさに「ひとつづくり」、人材育成の場であることは言うまでもありません。

近年よく耳にする言葉にICTというのがあります。ICTとは「Information Communication Technology」の略語で、直訳すると「情報伝達技術」。IT（情報技術）との違いは「Communication」という単語が含まれ、コミュニケーション機能が加わったものだそうです。情報通信に関する技術の総称で従来から使われていたITに代わる言葉で、海外ではICTの方が一般的だそうです。

ICTになることにより、その目的は「お客様対応の強化」「情報共有、社内コミュニケーションの強化」につながるので、その先は、AI（人工知能）でしょうか。機械にコミュニケーション機能が加わったことは、また一歩、人間に近づいたということでしょうか。

しかし、日進月歩。どんなに世の中が進歩しようとも、辿り着けないものがあります。それは、人と人の信頼や絆であります。

共に杯を酌み交わした日々。議論が白熱した研修「ノミニ

ケーション」。日本下水道事業団研修センターは、下水道技術者を育むのみならず、今日までさらなる下水道技術への挑戦と伝承、そして歴史を繋ぎ、人を紡ぎ続けております。その精神は、連綿と私たち「宮山福会」にも受け継がれており、今に至っております。

研修を受講された全国の仲間たち、これからも事業団研修センターで培ったスキルと「みずのわ」のスピリットのもと、各地域において、さらに大きく飛躍されることを心からご期待申し上げます。

結びに、日本下水道事業団研修センターのますますのご隆盛と、全国の「みずのわ」会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

特集「研修修了生7万人達成を祝って」～あの頃・あの時・今は～

日本下水道事業団 研修センターの思い出

京都府長岡京市

副市長 佐々谷 明光



た長岡京市を昨年、定年退職、現職で再就職をいたしました。が、土木の技術屋として一つの区切りがあったところでありました。再会は僅かな時間ではありましたが、思い出話に旧交を温めさせていただきました。

今回、寄稿させていただく事になりましたのは、久しぶりに京都へ来られた特任教授の渡邊良彦先生とのほぼ30年ぶりの再会がきっかけです。初めての研修センターで、担当をいただいたのが渡邊先生で、管渠1と推進工法の2回受講、お世話になりました。

先生とは何年か後、京都で一度、お会いしてお酒を酌み交わさせていただきましたが、それ以降、中々お会いする機会に恵まれず、今年の春再会、先生もセンターに引き続き勤めておられ、私自身も、長年お世話になっ

長岡京市は、面積19・17km²、人口80,800人、歴史的に幻の都と言われた平城京から平安京への間の10年間(784年～793年)「長岡京」の都があった所です。

京都と大阪の中間にあり、交通の要所として地下水が豊富で、工場が多く立地し発展してきた一方、京都へ約10分、大阪へ30分と交通の利便性が高いことから、住宅都市としても人口が急増し発展してまいりました。豊かな自然とコンパクトで住み心地のいい、筍の産地でもあります。

市の下水道は、京都府の桂川

右岸流域下水道の区域で、昭和49年度から公共下水道事業がスタート、私の初めての研修は昭和56年の管渠1でありました。当時の研修の事はほとんど覚えておりませんが、渡邊先生と研修を終えてから新宿ゴールデン街に繰り出した事を鮮明に記憶しております。田舎者の私にとっては目の眩むような楽しい？ひと時でありました。その後、二回目昭和63年の推進工法でした。研修後、推進の現場を監督して薬液注入工法で、家が傾くなど失敗も沢山し、苦労をしております。その頃、東京の御徒町で薬注による道路陥没事故が発生し、会計検査が薬注一本で来るといふ噂に青くなり、研修センターで一緒になった方達に、電話をしまくり、色々教えて貰った事などを懐かしく思い出しながら書いております。

あれから35年余り、本市の下水道は整備率が99%と、後少しの状況となっています。

一方、下水道を取り巻く環境は、我々の小さな市町村まで影響を及ぼして来ております。今、各地で起こる豪雨による自然災害への対応が本市でも大きな課題であり、雨水対策を重点的に

取り組んでいるところであります。京都府の桂川右岸流域下水道雨水対策事業「いろは呑竜」の施工が真最中であり、本市も雨水対策として降雨強度の見直しに加え、雨水貯留管の整備やポンプ場の整備など、雨水計画の見直しを行っています。又、汚水施設の耐震化や長寿命化を図ると共に、上下水道の一本化を進める為、下水道事業の公営企業会計への法適用に向け、この12月議会で条例改正を提案している最中であります。

今日までこのように下水道に関わり、先生とも長年にわたってお付き合いが出来るとは想像もしていませんでした。お逢いすると、顔や体型の変化はお互いにあります。同時にタイムス

1万人から2万人 J S 研修の思い出 大阪府都市整備部下水道室 室長 長谷川 明巧



リップするように、先生の熱意と想いは何も変わられてないことに、懐かしく今でも「頑張れ」と背中を押していただいているように、心強く感じております。私も、第2の人生で僅かでも下水道に携わりながら仕事を続けられる事は、出合いの場が研修センターであったこと、「一期一会」渡邊先生との出合いが今に導いて頂いたものと心から感謝をいたしております。もう少し頑張ってお世話になった皆さんに、お返しが出来ればと思っております。

最後になりますが、日本下水道事業団研修センターの益々のご発展と、関係者の皆さんの更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「研修 みずのわ」第50号発刊、誠におめでとうございます。

また、平成28年8月には研修生7万人達成とのこと、重ねてお祝い申し上げます。

このような記念号に寄稿できますことは、研修生OBの一人

として光栄なことであり、今年度末に定年退職を迎える私にとって感慨深いものがあります。お声掛けいただいた細川研修センター長はじめ関係各位に感謝いたします。

私がお世話になったのは、昭和62（1987）年の夏でしたから、実に30年程前のこと。私が研修生だったことがどうしてわかったの？と旧知の細川センター長にお聞きすると、「当然、研修生全員の名簿を保存してい

ます」とのご返事で納得。寄稿を引き受けた後に不安になり、何か当時の資料が残っていないか家探しすると、埃を被った研修ファイルと写真を発見し安心。

私が受講したのは、計画設計コースの「流域総合専攻」いわゆる流総コース。研修生は全9名、内訳は都道府県4名、建設省地方建設局2名と日本下水道事業団（JWS）3名で現研修センター教授の川島氏もその一人でした。

（ス問題）でデッドロックに陥っていました。このような状況で下水道課計画係技師であった私に、上司から「流総とは何か」勉強してこいと送り出されました。

研修は2週間で、下水道、河川、環境と実に多様でしたが、「体育」の時間もありません。写真はその時のもので、ソフトボールするのにならぬ人数不足で女性事務職員にも参加いただきました。研修生活は「快適」で、毎日痛勤と仕事に追われていた私にとって、朝夕荒川周辺を散策し何よりのリフレッシュになりました。

研修の仕上げには、当時の流域下水道課建設専門官市村氏や山梨県下水道課技術指導監栗原氏らと本音のディスカッションもあり、全国には「ダムの影響で水無し川もある」と事例等を紹介いただき、改めて理想と現実のギャップを認識し、地域のことしか知らない私には刺激になりました。これもJWS研修の良いところ、「全国の情報が得られること」「地域の悩み・課題を共有化できること」だと思います。

その後の私は、平成12年に大臣同意が得られた本府の当初流

大阪府も昭和45年の法改正後から「大阪湾流総」に着手したものの、河川検討（バイパ

皆さんは、広島県廿日市市（はつかいちし）をご存知でしょうか。「宮島あるいは厳島神社があります。」とお話すれば、多くの方に「そうですか。」と言っ



みずのわとひとのつながり

はつかいちし
広島県廿日市市

副市長 原田 忠明

総計画や現行流総計画にも携わることになりました。常に「流総とは？」を自問しながら……。ところで、最近の研修計画を拝見し、メニューが豊富なのに感心しました。経営コースが充実、維持管理コースは官民が受講可能、戸田での研修のほか地方・個別派遣研修も開催され、地方のニーズにきめ細やかに対応されています。

研修経費への補助金廃止に伴う受講料値上げで、受講者が一時的に減少するも、再び増加し

ているとお聞きしました。これは今日まで培われた研修内容への信頼と、受講生が研修成果を職場で実践している評価の結果だと思えます。今後もJWSにおかれては、多様なニーズに応えた研修の提供とともに、可能な限り経費を押しえていただこうお願いします。

最後に一言。私は第一線を退くことになりましたが、下水道の将来を担う人材育成のため「JWS研修は不減」です。

ただでさえです。また、時々「甘」を「甘」と間違って使用される方もおられます。全国的には知名度の低い本市ですが、広島市の西隣に位置し、平成15年に佐伯町・吉和村と、平成17年に大野町・宮島町と合併し、人口は約11万7千人、面積は約500平方キロメートルとなりました。また、世界遺産の厳島神社をはじめ、夏は海水浴、冬はスキーが楽しめるなど、多くの観光資源がありますので、「みず



「のわ」読者の皆様、是非、一度、廿日市市へお越しください。
さて、本市における下水道事業の概況ですが、公共下水道事業で5つの処理区、農業集落排水事業、3つ小規模下水道事業（団地に浄化槽）の汚水処理場、ポンプ場（雨水、汚水）、管渠の管理と整備を行なっています。これまで大きなトラブルも無く、職員が一丸となって、廿日市市公共下水道中期経営計画の達成に向けて、種々の課題や問題と向き合いながら頑張っています。このことは、これまで

昨年5月に、先生と旧来からの仲間の皆さんが広島にお越しになられた折に、本市の職員と交流をさせて頂いたのが初めてでした。また、現在、宮城県松島町の復興支援に本市からも職員を派遣させて頂いており、派遣交代に併せて、派遣の

日本下水道事業団研修センターの多くの先生方に、私を含めて、延べ60名を超える下水道事業に携わる職員の育成に、多大なるご尽力を頂いたことによるものであり紙面をお借りしましてお礼申し上げます。
下水道の事業課から離れて25年を経過し、現在、副市長の職責を担わせていただいております。職務上の会話の中で研修センターの渡邊先生に、本市の先輩や後輩が長年に渡りご愛顧賜っていることは承知しておりますが、直接お会いしたのは、

研修の想い出についてですが、私が研修に参加させて頂いたのは昭和60年工事監督管理、昭和62年管渠Ⅱの2回です。研修内容は、汚水管渠の主な工事である推進工事やシールド工事の監督管理がほとんどを占めていたと記憶しており、研修中の会話では、当時、下水道推進の経験の無かった自分が蚊帳の外にいたような気がしています。研修時間外に多くの人と、遊びや趣味、地域自慢、行政組織などの会話をさせて頂いたこ

お礼とともに、復興状況などの報告に、本市にお越しくださり、丁寧な対応を頂いています。松島町幹部の皆様との様々な意見交換をする中で、概ね、道路等の復興は見通しが立ったので、今後は、地盤沈下による雨水対策の整備が急務であるとの話から、日本下水道事業団へと話が進み、副市長、総務課長、建設班長の皆様と渡邊先生と懇意にされていることを伺いました。改めて、先生の人を大切にされる姿勢や、多くの深く太い「人とのつながり」を持つておられることに感銘を受け、先生を身近に感じさせて頂いていたところへ、この度の寄稿のお話を頂きました。

「研修みずのわ」発刊50回おめでとうございます。また、今回発刊50回に際し、思い出話の寄稿についてのお話をいただきありがとうございます。お話をいただいた時に、JS研修の懐かしさや楽しかったことを思



2万人から3万人
JS研修の思い出について
堺市上下水道局下水道部

部長 向井 一裕

い出したのですが、さて私は何年度に研修に行ったのだろうか。と、堺市に入庁以来の資料を引っ張り出し確認したところ、平成9年度の計画設計コース・認可研修に参加していたことがわかりました。
当時、私は下水道計画課の施設係に在籍しており、入庁後（入庁後は下水道部一筋）15年程度経過しており、その時点で下水道については一定の理解をしておいたつもりでしたが、改めて当該コースの研修において、認可取得に係る下水道の施設計画等

とで、一回り大きくなって職務に復帰できたと思っています。今回の機会を頂いたことにより、改めて、人材育成への取り組みを重点的に行なわなければならないと感じており、出来る限り多くの職員に研修の機会を設けたいと思っています。
最後に、近年の下水道事業を取り巻く状況は、私が下水道に直接関わった時代から大きく変化し、各自治体における重点的

に取り進むべき課題も様々であると認識しています。全国の下水道事業に携わる多く皆様と研修センターに集い、時代や自治体の課題に取り組みされることで、より一層大きく成長され、各自治体でご活躍されることを願っています。日本下水道事業団の研修センターの益々のご発展と、「みずのわ」と「人の輪」が益々大きくなりますことを、心から祈念申し上げます。

を学んだことは新鮮であった事を記憶しています。特に、処理場計画としてオキシデーションディッチ法の処理施設を配置するにあたっては、当時、水処理は、標準法と嫌気無酸素好気法しか知らなかった（恥ずかしなから）私としては、こんな処理法があるんや！と感動したこと思い出しました。

研修期間は、2週間間で土日を含んで計10日間の研修でした。その間、月曜日から金曜日の昼間は、まさに学生時代以来の拘束された状態での勉強、勉強でした。また、夜は、夜で昼間の課題を皆で議論するというまさに絵にかいたような真面目な研修生として、戸田の生活をスタートさせた覚えがあります。ある夜（おそらく3日め）、だれともなく職場（勤務中）ではないのだから、「ちよつと酒でも飲みながらリラックスして議論した方が、良いアイデアが浮かぶのではないだろうか。」との意見がでて、当然だれも異論をはさむことはなく、その夜から毎晩、下水道事業に係る話題は若干横におきながら、意見交換会と称した宴会がスタートしました。その宴会は、当初は同じ課題を扱うグループ数人か

らスタートしたのですが、ある時は、計画設計コース以外の研修生も参加したことから、研修終了時には、宴会を通じて非常に幅の広い人の繋がりが出来上がりました。

現在、国においては、下水道事業に携わる若手の職員が他組織の若手職員と交流する場として、下水道場を設立し、業務上の課題や各自自治体が抱える下水道における課題等を議論し、自治体若手職員のネットワーク形成をサポートする取組が行われているところからです。

J S研修の目的は、当然下水道事業に係る各種知見を得る専門研修であり、研修そのものが下水道事業に係る知識の醸成に

資するものです。しかしながら、研修そのものが基幹事業なら、研修期間中に得る人の繋がりは、下水道場同様各自自治体のネットワークを形成する効果促進事業といえるのではないのでしょうか。そして、その効果はネットワークを増殖することにより、基幹事業を上回ることも可能かとも思います。

最後に、日本下水道事業団におかれましては、日本の下水道の「持続・進化」へ向け、今後も社会情勢の変化に合わせた多面的な研修コースを企画され、地方公共団体のネットワーク形成に資する貴重な場を提供していただくことをお願い申し上げます。

「J S研修での出会い」

福島県南会津町建設課

主任主査兼都市計画係長 星 博文



このたびは、研修生7万人達成おめでとうございます。

また、「研修みずのわ」の50回目という記念すべき号に寄稿の機会を与えて頂き、ありがとうございます。

私は旧田島町職員として新規採用された平成8年度から平成

13年度までの6年間、下水道事業に携わり、その間、平成8年度に実施設計コース「管きょI」、平成9年度に維持管理コース「小規模処理場管理」、平成13年度に経営コース「消費税」と合計3回のJ S研修に参加させて頂きました。

はじめは、「事務吏員である私に工事の監督員など務まるのだろうか」と毎日不安を感じながら仕事をしていた私でしたが、J S研修でコース担当の先生や講師の方々から親切・丁寧

に基礎から教えて頂いたり、研修時に同じ班や部屋だったメンバーに、研修中だけでなく研修後も引き続き面倒を見て頂いたりしたおかげで、在任中の6年間を何とか乗り切ることができました。当時お世話になった皆さんには、この書面を借りて御礼申し上げます。

また、直接のコース担当ではなかったのですが、職場の先輩からの紹介で知り合った日本下水道事業団の渡邊良彦さんとは、現在でも家族ぐるみでお付き合いさせて頂いている程の間柄なのですが、渡邊さんからの誘いで参加した「関東みずのわ会」や「宮山福会（旧宮山会）」「青春を語る会」等を通して、

いろいろな都道府県や市町村の方々と知り合うことができ、現職中の方々はもちろん、退職された方々とも今でも公私に渡って交流させて頂いていることは、私にとって何事にも代え難い貴重な財産であり、また、このような素晴らしい「みずのわ」の輪をもっと広げ、次の世代に引き継いで行くことが諸先輩方々への恩返しであり、また、我々の役目ではないかと考えています。

下水道事業だけに限った話ではありませんが、当町のような小さな市町村では、「深刻な技術職（専門職）不足」で事務職が技術職を担っていたり、一人で幅広い業務を担っていたり、相談できる同僚がいないうところも少なくないと思います。

だからこそ、全国各地から同じ仕事をしている仲間が集まり、寝食を共にしながら一緒に学び、酒を酌み交わしながら悩み事を相談することのできるJ S研修は、とても貴重な存在であると思いますし、西川口界限に繰り出し、門限破りをして一緒に始末書を書いた仲間だからこそ、研修後もずっと繋がっていただけるのだと思っています。

(笑)
結びになりますが、こうした勉強する機会や出会いの場を与えて頂いた当時の上司や先輩に感謝するとともに、JS研修が

益々発展し、「みずのわ」の輪が今以上に全国に広がることを期待して、私からの第50号への寄稿とさせていただきます。

3万人から4万人

「人と人とのつながりに感謝して」 —祝 研修生7万人達成— (公益財団法人) 岩手県下水道公社工務課

課長 長沼 輝伸

はじめに、研修会報「みずのわ」の50回目の発刊並びに研修生7万人の達成、誠におめでとうございます。また、この記念号への寄稿を打診していただいた細川顕仁所長、渡邊良彦先生に感謝申し上げます。

私は、平成11年に管渠Ⅱ、処理場Ⅱ、平成23年に下水道長寿命化計画と、3回受講しています。当時の管渠Ⅱや処理場Ⅱは、みっちり3週間の研修でした。長女が産まれて7か月程の時期でしたので、研修が終わって帰宅すると「あなた、だれ・・・」と号泣されました。しかし、研修の日々は楽しかった。担当教授の渡邊先生の温かいご指導のもと、夜遅くまで意見交換(酒)、川口市街地の現場調査

(?)で毎日が忙しかったことが思い出されます。

それから、17年が経ち現在も下水道行政に携わっています。強く思うことは、研修は専門知識の習得のみならず、研修生、研修センターの先生方、講師の方々とのネットワークという財産をつくる場であるということです。最近では研修費用値上、旅費等の経費節減、職員縮減による業務量の増加、さまざまな背景により研修受講を控えざるを得ないという話を聞きます。しかし、「人口減少、施設老朽化、経営問題」等、下水道行政に多くの課題がある今こそ、しっかりとした知識を身につける必要がありますし、情報収集できるアンテナを張っておく必要があ

ります。アンテナは人とのネットワークです。デジタル社会の今だからこそ、人のお付き合い(酒)は大切にしたいですし、事業団の研修は今後も寝食を共にし、人間臭い付き合いのできるようなものであってほしいと思います。

お付き合いといえは、渡邊先生には研修以降もお世話になりっぱなしで、本紙「みずのわ」でも毎年寄稿されて有名になっている「宮山福会」にも参加させていただいています。さらに、岩手の下水道関係者で「渡邊先生を囲む会」を開催しています。今度は節目の10年目を迎えます。最近盛岡市内で開催していますが、過去には花巻市や二戸市を会場としたこともあり、盛岡市、花巻市、陸前高田市、二戸市、雫石町、岩手県、下水道公社の職員で、渡邊先生にお世話になった方々が参集し、それぞれの近況をネタに酒を酌み交わしています。職場も職名も異なる方々ですが、渡邊ワールドの居心地の良さに、ついついお酒も飲みすぎてしまいます。昨年は若手ドボジョ(土木職の女子)が1名参加、そして今年若手キカジョ(機械職の女子)が1名新たに参加する

見込みです。今から渡邊先生の満面の笑みがこぼれるのを想像してしまいます・・・。
しかし、このようなお付き合いの中で悲しい事もありました。東日本大震災津波により陸前高田市下水道係の吉田和也さんが亡くなったことです。吉田

さんは管渠Ⅱの研修で渡邊先生にお世話になった方でしたので、上記の会に喜んで参加してくれました。平成23年3月1日に盛岡市内で開催した際も遠路駆けつけてくれました。「次は維持管理Ⅱの研修に行きますからね!来年は陸前高田市で渡邊



平成 22 年 2 月 二戸市内にて



平成 28 年 3 月 盛岡市内にて

先生を囲みましょう！」今も忘れることが出来ない吉田さんの声です。この場を借りて、ご冥福をお祈り申し上げます。

東日本大震災は多くの犠牲と被害をもたらしました。1000年に一度と言われる地震にまさか遭遇するとは想像も

出来ませんでした。このような時だからこそ、技術者は稼がねばならないし、後世に経験を引き継いでいかねばなりません。

私は、震災時に県庁下水環境課に在職し、県内市町村の応急対応などについて調整業務を体験しました。その後、渡邊先生

から「平成24年度から『管渠の液状化対策』のコースを開講するから、県庁で取り組んだ事例を研修生に話して欲しい。」と依頼されました。渡邊先生の依頼であれば断るわけにもいかず、渋々引き受けたのが本当のところでした。

それから5年間講師を務めました。体験談を通じて、震災の悲惨な状況を少しは理解してもらえたのではないかとと思っています。研修生との懇親会で「先生の話を聞かなければ、震災のひどさを知ることは出来なかった。今後の災害対応の動機付けになりました。」と言ってもらい、やって良かったと感じました。

このコースは今年度で一区切り付け、一旦休止となりますが、何らかの形で震災の教訓を語り継ぐ機会があればと思っています。これまで宮城県七ヶ浜町町長の寺澤さん、福島県須賀川市の安田さん、青木さんと被災地からの発信をさせていただきましたが、それぞれの思いは研修生の皆さんの胸に刻まれたことを願う次第です。

最後に、大変恐縮ではありましたが、細川所長から講師として貢献したということで感謝状をいただきました。こちらこそ、貴重な経験を積むことが出来たことに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

私が事業団の研修にお世話になったのは、平成11年1月の「管きょⅡ」でありました。真冬の1月で雪が多く、研修へ出発する前の2日間屋根の雪下ろしをしてから行った事を思い出します。

私が事業団の研修にお世話になったのは、平成11年1月の「管きょⅡ」でありました。真冬の1月で雪が多く、研修へ出発する前の2日間屋根の雪下ろしをしてから行った事を思い出します。

「研修がつなぐ人の輪」

山形県米沢市上下水道部下水道課

課長 石山 哲



はじめに、米沢市について少し紹介をさせていただきます。

米沢市は、山形県の一番南に位置し福島市と接しています。現在、東北中央自動車道の整備が進められており、平成29年度中に福島～米沢間が開通します。この区間は、国土交通省

が新直轄方式により整備している高速道路で料金は無料となります。

米沢市は、米沢牛で有名ですが果物や米沢ラーメンも大変おいしく、温泉もありますのでぜひお越しください。

私が事業団の研修にお世話になったのは、平成11年1月の「管きょⅡ」でありました。真冬の1月で雪が多く、研修へ出発する前の2日間屋根の雪下ろしをしてから行った事を思い出します。

私は下水道課へ異動して1年目で、研修は当初先輩が受講することになっておりましたが、急きょ都合により私が参加することになりました。そのうえ総代という役目もいただき、コースのいろいろな行事など、幹事長とともにおまけの役員としてお手伝いをさせていただきます。主に幹事長は昼の研修について、私は夜の部の担当として楽しく務めさせていただきました。

この様な縁から、研修担当の渡邊良彦先生には大変お世話になりました。私にとりまして、渡邊先生との出会いが研修で得ました最大の財産となりました。

研修が終わり、渡邊先生から連絡がありました。事業団研修を通じて渡邊先生と交流のある、山形県と宮城県の人達との交流会「宮山会」に参加しないかとの誘いでした。

毎年、山形と宮城の温泉で交互に開催されておりました。この渡邊先生を通じて知り合った宮山会の参加者の方々の出合いが、すばらしい人達とのつながりとなりました。山形市の安達敏一さん、山本好伸さん、宮城県七ヶ浜町の若木秀清さん、寺澤薫さん、米沢出身で事業団の青木実さん、宮城県や関東の皆様はじめ多くの方々との出合い、現在も楽しくお付き合いをさせていただいておりますことに、心より感謝申し上げます。現在は、福島県の方も多く参加され「宮山福会（みやふくかい）」となり、今年は、福島県の磐梯熱海温泉で開催され、上下関係なく楽しく夜遅くまで下水道や地元の話などで盛り上がりました。

さて、本市も今年度より水道部と下水道課が統合し「上下水道部」となり、また、平成31年度からの地方公営企業法適用を目指し、今年度から移行業務を進めております。そのような事もあり、事業団の研修に毎年お

世話になっております。今後、益々人員も減り技術者も少なくなる中、人材の育成、技術の継承が不可欠であると思えます。これからも、下水道技術者の育成と人をつなぐ場とし

ての事業団研修を、引き続きよろしく願っています。最後になりますが、研修センターの益々の発展と関係者の皆様のご活躍をお祈りいたします。



4万人から5万人

「穂積と山田」

福岡県福岡県土整備事務所都市施設整備課

穂積 千絵



平成15年8月某日、福岡空港から飛行機に乗り、電車で揺られ戸田についた。私が若干若い、まだアラサーのときのことである。真面目な研修だというのにいろんな妄想をしながらワクワクし、研修所の門をくぐった。このときは10日間ほど缶詰で 計画設計コースを受講した。懇切丁寧な講師の指導のもと、雨水計画や管路設計などを学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごした。毎日課題が出るので、我ながら珍しく真面目にやっと思った。以上は昼間の話である。夜は勉強しながら飲んだり、飲みながら勉強したりした。J Sの研修をうけ、下水道事業を進める上で知識や技術力の向上に大変役立つが、同じくらい私の財産になったのが、そこで知り合った人

たちである。私が彼女と知り合ったのもその研修だった。彼女は全く別クラスで消費税コースを受けていたようだったが、ふと気づくと一緒に飲んでた。基山町役場から送られてきたお酒を私もちっちゃかり頂き、共に酔っぱらった。あれから十数年経った。今でもふと気づくと 相変わらず彼女と一緒に飲み、老後や保険の話をしていたり、旅行に行ったり、意外と真面目に仕事の話のLINEをしていたりする。そして、研修所の細川所長がH28年夏、来福され、正式に執筆依頼を頂いたときも一緒に居た。(くわしくは写真をごらんください。ちなみにそこにいた方全て、戸田研修生OBでした。)このとき、彼女との研修所での縁を所長に話したら、じゃあ、半分づつ書いたら?となり、今に至ります。これが冊子になったら永久保存版にして、最終的には棺桶に入れてもらおう、と昨日も山田さんとLINEで話したところです。

というわけで、基山町役場 山田恵さん、後半はすべらない話をお願いします!

佐賀県基山町（現在、九州経済産業局出向中）

山田 恵



庁の方にはお世話になっており
ました。

平成14年度に下水道課へ異動
となった私は、上司から「福岡
県の伝説女子」として「穂積千
絵」他数名の名を伝え聞いてお

り、頭の隅に刻み込まれており
ました。まだ個人情報管理がゆ
るかった時代、研修所で同期間
中に受講している受講生の名簿
みたいなのを見る機会があり
「福岡県 穂積千絵」という名
前を発見した時は伝説のあの人
だと大変感動したのを覚えてお
ります。興奮気味に職場に電話

し上司に報告したところ、「仲
良くなってきなさい」と命を受
けましたので、早速廊下ですれ
違いざまに「福岡県庁の穂積さ
んですよ？佐賀県基山町の山
田です。今度一緒に飲みましよ
う」と声をかけ、勝手に計画設
計コースの飲み会に乱入したこ
とで、平成15年度にわたしたち
の県境を越えたお付き合いが始
まったのでした。

なお、なぜか計画設計コース
の人とは今も連絡を取ってい
て、青森県や京都府に旅行に行
くときはお付き合いをいただい
ているという不思議なご縁をい

ただきました。

下水道事業全般についてしつ
かり勉強できるだけでなく、素
敵なご縁がいただける下水道事
業団の戸田研修所が今後も益々
発展されますことをご祈念申し
上げます。

2016年8月に細川所長が
来福されたときの歓迎会の様子
です。「私たちがお酒が強すぎ
て福岡市役所、諸先輩方のみな
さん、潰れちゃった」的な一
枚です。

このときも各々の研修セン
ターでの思い出話に花が咲きま
した。

山口みずのわ会

「おいでませ山口へ」

山口県防府市土木都市建設部都市計画課

主幹（兼）開発指導室長 友景 康浩



ありました。仲間達の結束力
が、充実した3週間の思い出と
なり、鮮明に刻まれています。こ
平成19年、お話しいたします「こ
の物語」の中心には、いつも特
任教授渡邊良彦様のお人柄があ
りました。

日本下水道事業団研修セン
ターにおかれましては、今年度、
栄えある研修生7万人達成の功

管きよ設計Ⅱ、渡邊コース、
総勢は16名、確かに少人数では

ハードル高めで紹介いただい
た、佐賀県基山町役場の山田恵
です。穂積さんの紹介のとおり、
消費税コースを受講し、毎朝一
番に教室に行き、加藤先生がご
自分のために用意されていた熱
いコーヒーをおすすめ分けていた
だきながら熱いご指導の下しつ
かり勉強してまいりました。こ
こまでは昼間の話です。

そもそも、なぜ福岡県庁から
計画設計コースを受講していた
穂積さんと佐賀県基山町から消
費税コースを受講していた私が
飲み友達になったのか？？？で
すよね。

実は我が基山町は、県境を越
えて福岡県と流域で処理を行な
う宝満川上流流域関連公共下水
道事業として、平成12年度に事
業認可を取得しているのです。
そのため基山町は何かと福岡県



山田

穂積

細川所長



績を樹立され、誠におめでとう
ございます。この記念すべき年、
機関紙「みずのわ」第50号に寄
稿させていただける一人とし
て、渡邊教授からのお誘いも有
り難く、僭越では御座いますが、
私も拙文執筆させて頂きます。

事業団研修は、下水道事業
に携わる職員にとっては、専門
的な知識が習得できる場では
ありませんが、もっと大切なこと
は、多くの皆様方とお知り合
いになれたということ、それが、
その後の私の財産になっている
ということでもあります。素
晴らしい方々に出会いました。
会計検査情報のやり取りがで
きるのも、旅先で遠慮なく再
会できるのも、何だか人との繋
がりがある感じが
あります。

私、渡邊教
授から幹事
を命ぜられ
まして、先
生が外部講
師の方と会
合をされる
席に、副幹
事と二人、
同席させて
頂きました
が、関東の
自治体の知
識豊富な上
役の方と、
技術屋談議
に花を咲か
せ、とても
貴重な体験
をさせて頂

きました。
それと、研修期間中に、渡邊
教授が誕生日を迎えられると伺
いまして、研修生で考えたささ
やかなサプライズが、ホワイト
ボードの裏面にしたためた「お
めでとうメッセージ」。その日
も、幾つも授業があったのです
が、このボードは途中でひつく
り返されることなく役目を果た
しました。真剣に授業を受けま
した。緊張した一日でした。
研修センターを卒業して4年
目の冬、渡邊教授が山口県にお
立ち寄りになられることとなり
ました。教授とのご縁を再びと、
県内各地から教え子が集まりま
したが、全国で展開されている
「みずのわ会」など、当時の私
たちは知ることもなく、山口県
からの研修生を称して、先生か
ら頂いた愛称は「山口組」。あ
れが「山口みずのわ会」の発足
だったとするならば、以降、毎
年の開催で昨年5回目を迎えた
ました。近くにお越しいただいた
際に、山口県へお寄り頂いてい
るのであります。「山口みずの
わ会」の特徴は、事業団研修を
夢見る若手職員が「来年は、私
が渡邊コースにお世話になりま
す。」と、予算規模を超えてる
人数で渡邊教授に自己紹介して

いるところでしょうか。渡邊教
授のあるところ、人がつどい新
たな人の繋がりが生まれます。
私も「山口みずのわ会」で、県
内の自治体職員の、何人とも知
合いになれたことでしょうか。
先日、卒業して9年目、渡邊
教授とお食事をするだけの為
に、研修センターへ登校しまし
た。あの頃は、スカイツリーは
無かったですね。しかし変わら
ぬ懐かしい事業団の建物が、そ
して渡邊教授が私を迎えて下さ
いました。

こと、心より感謝申し上げます。
東北の震災復興現場の状況をま
じかに拝見して、改めて、私た
ち自治体職員が防災危機管理に
携わる時、求められる最大限の
危機管理能力とは何か。そんな
問い掛けにも、答えられないで
あろう自分の未熟さを痛感しま
した。復興計画の早期達成を祈
念いたします。

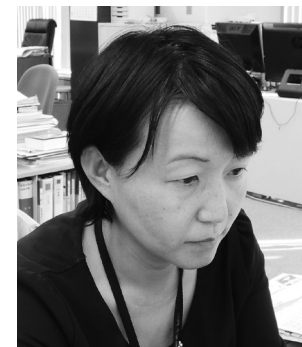
思ったとない上京でしたの
で、この機会にと、渡邊教授に
翌日の行程を練って頂きました

思い出の写真を送ります。「事
業団研修」と、「山口みずのわ会」
です。叶うものなら、私、また
再び、下水道課で働いてみたい。
そう願っています。叶うものな
ら、もう一度、渡邊コースで学
びたい。そう願っています。

5万人から6万人
日本下水道事業団
滋賀県琵琶湖環境部下水道課

研修が繋ぐもの

主査 **山田 千尋**



筆不精かつ文才の無い私に研
修センター長自ら「みずのわ」
の寄稿依頼の声をかけて頂き、
誠にありがとうございます。承
知しました！との回答しか許さ
ない雰囲気と威圧感を感じなが
らも大変光栄であり、感謝申し
上げます。



何を書かせて頂くかと振り返っていたのですが、平成15年度に滋賀県に土木職として入庁してから13年間で研修センターへは3度お世話になっておりまして、その時々のご縁を綴らせて頂く事にしました。

私は滋賀県に入庁してからずっと下水道事業部署におり、流域下水道の建設事務所、県庁、下水道公社、維持管理の職場を渡り歩いて参りました。その中で、1度目の研修センターへの往訪は平成16年度の「流域総合計画（流総計画）」に関する研修でした。すでに遠い記憶になっていますが、流総計画というテーマのせいか参加者は県の方ばかりだったように思います。当時は入庁2年目で建設事務所に配属されており、流総計画をよく理解していないまま参加し、頓珍漢な発言を繰り返していた失礼極まりない研修生でした。それでも、講師の皆様、他の研修生の方々に暖かくご指導いただいた記憶も残っています。今から思うと汗顔の至りですが…。

の研修は資料も残っており、写真はその時のモノです。長寿命化支援制度が創設された年度であり、下水道事業が本格的に維持管理、マネジメントの時代に入ったことを感じる頃だったかと思えます。2泊3日と比較的短期間の研修期間であったということもあり、30名を超える研修生と、てんこ盛りの研修内容であつたという間の3日間でした。今になって当時の研修資料と写真を見て非常に驚いたことがあります。この原稿を書いている平成28年度現在、私は日本下水道事業団に派遣されているのですが当時のこの研修の参加者のうちO市とF市から来られていた2名の方と今、まさしく同じ事業団の職場で一緒に働いていることに今更のように気が付きました。平成20年度の研修から8年後に、よもや、その時の研修生の方々と同じ職場で働くことになるとは、想像すらしなかったことです。まさしく、JS研修が繋ぐ縁だな、としみじみ実感しております。

3度目は、平成28年度に恐れ多くも研修生ではなく講師側としてでした。平成27年度の下水道法改正を受け、事業計画の記載内容についても変更され、新

しい計画策定について考え方や事例紹介も含めた話をさせて頂きました。受け手側でなく、送り手側の立場に立つことと自体、今まであまり経験したことが無く、プレッシャーと戦いながらもいかに分かり易く相手に伝えるかという事を考えるため、準備にかなり時間を要しました。その過程で私自身も気づくと、理解が深まることごとくさんありとても良い経験となりました。このような機会を与えてくださったことに改めて感謝しています。

ありがとうございます。これからもJS研修が下水道事業の未来と、下水道事業に関わる全ての人たちのさまざまな縁を繋いでいくことを期待しています。



教授等OB

研修生7万人は通過点

(元)J S 研修部助教授(元)東京都下水道局
(現)TGSサポート倶楽部水環境案内人

安彦 四郎



昨年7月に研修生7万人達成されたとお報せを受け、心からお祝いを申し上げますと共に、改めまして研修部(当時)時代を懐かしく想い出されました。

顧みますと、昭和58年には1万人が達成され、その記念事業の一環として、本館の前庭に櫻を植樹しておりますが、研修センターの発展を象徴するように、今でもすくすくと育っていることと推察します。その後、平成20年1月に5万人が達成され、8年間後の昨年で早くも2万人が新たに研修生が仲間入りしたことになります。この

ペースでいきますと、10万人達成はそう遠くない将来のことではないでしょうか。

私が研修部の助教授として、お世話いただいたのは昭和59年から3年間で、主に実施設計コースの管きよI、IIを担当し、施設見学では東京都の森ヶ崎水再生センターと併設の南部スラッジプラントや地下30メートルの東北新幹線山野駅の工事現場などを見学しました。また「研修 みずのわ」の編集のお手伝いをさせていただき、「新厚生棟の完成記念号」(第22号)や「特集 モデル下水道事業」(第24号)などを発行しております。

あれから30年以上も経ちますが、研修コース、専攻内容も様変わりしているように見受けられます。例えば計画設計コースの雨水対策・地震対策、経営コース、維持管理コースの事業場排水対策・水質管理のトラブル対

応及び国際展開コース等は、当時のコース・専攻には無かったように記憶しております。これも、研修センターが常に日本の下水道におけるニーズ、時代の変化に即応していることに他なりません。

人間生活と下水道は表裏一体であり、両者は「永遠なり」といつても過言ではありません。換言すれば、研修センターは日本の下水道の健全な発展の一翼を担っており、下水道が存続し続ける限り、同センターも活動し続けることとなります。

一方、送られてくる「J S 研修 みずのわ」(機関誌)を繰りながら、全国各地に結成されている「みずのわ会」(同窓会)の活躍等を拝見しますと、いかに研修センターの発展に側面から寄与しているか、計り知れないものがあります。私共も埼玉県・さいたま市と東京都の同窓会である「さいと会」は、昭和50年の結成以来、開催場所をさいたまと東京とを交互に、新しい研修生の仲間を交えながら、切れ目無く交流を続けております。(別掲)

今後も、オールジャパンの研修センターと「みずのわ会」は、車の両輪のごとく、益々交流を

深め合っていくことを、願ってやみません。

また、渡邊教授がこの程、奈良県橿原市の観光親善大使に任命されたとのことですが、重ね重ね心からお祝いを申し上げますと共に、今後のご活躍を期待します。

最後になりましたが、今回の研修生7万人達成は、将来の

「祝研修生7万人達成」

(元)J S 研修部助教授(元)東京都下水道局
(現)TGSサポート倶楽部水環境案内人

村井 直樹



研修生7万人達成おめでとうございます。誠にありがとうございます。熱意のたまものと思えます。深く敬意を表します。私は昭和58年4月より61年5月まで3年間研修部におり、維持管理コースを担当しました。1万人達成の頃が懐かしく思い出されます。

10万人、12万人達成への通過点でもあり、その目標に向けて研修センターの今後の一層のご発展とスタッフの皆さんのご健勝を衷心より祈念いたします。

研修センター
ここ戸田に 呱呱の声あげ
四十年余 研修生は 七万人に

当時も研修企画課はじめ管理課、運営協会、そして管理人、厚生棟の皆様が、研修生方を温かく支援しておられました。私は初めてコースを担当した時、こちらの研修生はさすが各地のエリートだと感服しました。地元で役立つことは何でも吸収していこうという迫力がすごく、逆に私が気合を入れてもらうこともありました。お一人おひとりが先生であり、また生徒であったと思います。コースが終れば、研修生から感想文で率直なご意見をいただき謹んで心に染み込ませました。それも東

の間、さて次のコースには一体どんなすごい方がお見えになるのか、楽しみであると同時に身の引き締まる思いで準備に入りました。開講式が2月の懇親会では「きのうはマイナス10度、吹雪でした」との挨拶があり、他方で「出る時は20度で桜は咲き始めてます」の挨拶もある。日本の広さを実感したものです。

苦労話もありました。施設見学当日なのに、鉄道スト実施のニュースがあった時です。行くから待ってとバス会社に電話し、自宅からチャリコンを飛ばし車庫に到着、大型バスに同乗し渋滞道路を研修本館まで誘導しました。今日は開店休業とあきらめていた研修生はコース担当がバスに乗って来たのでびっくり。のろのろ運転だが横浜市の処理施設を無事見学し、午後はあこがれの中華街での食事が実現できました。今更ながら外部講師の方々、そして研修生の現場実習や施設見学を快く受けて下さった自治体や企業の方々に深く御礼申し上げます。

研修部で鍛えられた私は現在、都の水再生センターの見学

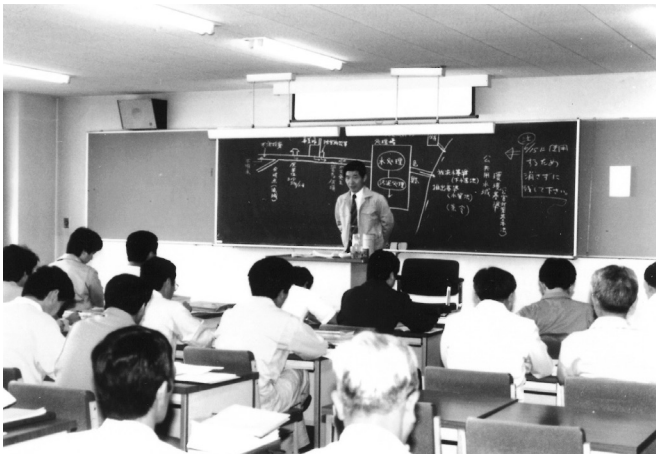
案内に従事しております。近頃は下水道に関心を寄せる若い世代が増えてきております。また海や川の汚れが深刻な外国の都市からも見学があり、技術職員の養成策が質問されます。日本語が出来る人ならば、事業団研修を検討するのの一つですと答えます。かつて私の担当コースで、中国天津市の職員が、三重県四日市市の準職員として維持管理宿泊研修に参加し、大成果を携えて天津市に戻られた実例もあります。友好都市受け入れの道が広がればよいと、研修部の一ファンとして期待しております。

今年も、研修生たちは寝食を共にし、下水道について学び議論し、研修後も友好連絡体制を築いておられることでしょう。下水道界の底力の源泉のように思われます。研修生7万人達成を祝賀する輪に、私も加えていただき光栄であり感謝しております。みずのわの皆様、ご指導ご友情どうぞよろしくお願いいたします。

日本下水道事業団研修センターのますますのご発展をお祈りいたします。



意気盛んな研修部（昭和59年度）



熱心な研修生の方々（昭和60年度 総合管理）



懇親会風景の一例（昭和60年度 水質I）

講師等OB

遠い昔の思い出

(元) 栃木県足利市上下水道部

主幹 柏瀬 保夫



この度は、研修会報「みずのわ」が50回目の発刊を迎えられる記念すべき年に研修受講生が7万人達成され誠にめでたうございます。

遠い過去となつてしまった昭和50年小平市の建設大学校（都市計画）の研修を経てから20年後の平成7年5月に、当研修所の門を潜りました。異動で来たばかりの私が受講したのは実施設計コース管きよII専攻(43名)北澤正彦助教授のコースでした。この時期、現在の総合実習棟が完成まじか3週間大変な騒音の中の研修が始まりました。研修生の自己紹介が始まりお国自慢や故郷の土産話、下水

道よもやま話が続出、ネタがつきません。しかし、私はまったくの素人、専門用語の知識もなかつた中不安な講義で専攻を誤つたかと自問自答の毎日でした。そんな折、同室7人の研修生と先生（北澤先生、酒井教授）の混合チームとなつてソフトボール大会に臨み見事に優勝。休日は東京見物に繰り出し霞ヶ関ビルのエレベーターに驚き秋葉原での無線機の爆買いなどいつも7人一緒でした。推進工法の設計は、皆が手伝い設計書が出来た時は、嬉しかった事を思い出します。当時は、研修結果が報告されていたので部屋に戻ると全員予習・復習と深夜まで起きていたのを覚えています。その成果が効果テストでした。なんと7人満点でした。（この頃異例）
楽しくなつてきたころには、瞬く間に修了式となつてしまいました。一緒に過ごした仲間との別れが寂しくいつの間にか東京駅にいました。帰ろうなんて

誰も言い出さなかつたことが思い出されます。
さて、ここで講師依頼のいきさつを述べますと、18年前上司が講師として上京した際、カバン持ちとして同行その夜の宴席で初めて渡邊先生にお会いしました。当時は、物静かな笑顔の優しい人だったと覚えています。（今は、？）その次の年、木下教授から研修テキスト「工事施工と住民対応」の作成依頼がありまして平成13年4月に初版、平成16年8月に改訂版をこの間校正で渡邊先生より指導を受け発刊の運びとなりました。あの時は、ありがとうございます。その後、毎年講師依頼を頂き今日に至っていますが、最初の講師依頼の内容は、下水道には、なじまないものでした。この時代は、国が下水道事業を積極的に進めた頃でした。3K（汚い・危険・きつい）といった社会現象が建設業に携わる人材を減らし職場環境の悪化をもたらした。職員1人当たりの仕事量が大変多く下水道事業でも残業が普通でありそんな職場では、ストレスが原因で起きる心の病（鬱病）が蔓延し全国の自治体では危機感を募らせ人事管理を始めた矢先であるそんな中



ソフトボール大会（左の列右から3番目が私）

での講師依頼だったと思いません。しかし自分は、医師や精神科医でもないのに簡単に受けてしまい日が経つにつれ事の重大さを知りました。
当時、A市でも当然研修がありすぐに受講、すぎる思いで講

師の先生に相談しました。その方は、私の立場を理解して頂き、ご自分の資料も無料で貸してもらいまして、その後何度も指導を受けて初めて「職場のメンタルヘルス」の講師として教壇に立つことが出来ました。勿論渡

邊先生の推薦があったからです。このことを契機に他のコースの講師依頼(暴力団対策・会計検査対策等)を頂き今日にいたっています。平成24年には、事業団設立40周年記念に当たり外部功労者として受賞し感謝状を頂きました。

この様に、渡邊先生の関係により多くのコース担当教授の皆様や他の講師の方々と冠婚葬祭は勿論のこと懇親を深めさせて頂きました。宮城、山形、福島県の「宮山福会」と平成24年から始まった「水サミット」も足利・佐野・京都・日光・広島、そして今年、熊本サミットの予定であったが震災によりキャンセルとなっていました。しかし来年復興熊本水サミットとして予定をしています。また、



忘れてならないのが地元「関東みずのわ会」です。毎年退職者をお祝いする会「新年会・卒業を祝う会」に「お元気ですか」と渡邊先生のあいさつに始まり卒業式も半ばを過ぎると大宴会とお互いの今上報告に花が咲きます。懐かしい人たちが一同に集い老いも若きも関係なく楽しいひと時を過ごす事ができています。今後もこの研修所で結ばれた絆を強くそして末永いものにしていく為に「みずのわ」の波紋をより広く大きなものにしていければなりません。

懐かしい思い出を綴らせて頂きましたが最後に日本下水道事業団の益々のご発展と研修生皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

日本下水道事業団

研修を3回受講して

(元) 埼玉県蓮田市上下水道部下水道課
課長 岡本 久年



私は事業団の研修を昭和の時代に3回受講しました。実施設計コース(実施設計Ⅱ)、実施設計コース管渠Ⅲ(推進工法)、工事監督管理コースの3コースです。その中で一番印象に残っている研修は、昭和52年11月の初級研修の実施設計コース(実施設計Ⅱ)です。研修棟は現在の宿泊棟1棟だけで、その中に宿泊、研修室、食堂、浴室等がありました。期間は4週間ですが時は土曜日午前中講義があり、講義内容としては、測量実習では、現地で平板測量・水準測量を行い、平面図・縦断面図をA1サイズのトレーシングペーパーに全て作図する作業でし

た。図面を完成するために、製図室で夜遅くまで作業したと、また、積算演習では、代価表を全て作成し、この間必死になつて受講したことを今では懐かしく思い出されます。又、水曜日の午後、リクレーションの時間が、隣にある処理センターは、当時供用開始はしていましたが、研修所の隣は未整備の広い用地があり、研修生同士でソフトボール大会があり、交流を深めたことも良い思い出の一つであります。

この研修を通じて、渡邊先生にお会いしたことがきっかけとなり、現職の時も何回か講師の依頼を受け微力ではございますが、研修センターにお伺いしたことがありました。渡邊先生から初級研修の受講後に「関東みずのわの会」への入会のお声をいただき、東京都・横浜市・川崎市・さいたま市・草加市・新座市・足利市・佐野市・古河市・千葉市・大和市など多数の方々

との交流の場を頂き、大変貴重な体験をさせていただいております。

平成26年からは「宮山会」(現在は「宮山福会」)に参加させていただき、10月中旬に行った山形県月山の紅葉が見事で赤と黄色のコントラストに圧倒され、何とも言うことのできない光景でした。又、松島は日曜日と重なり観光客で賑わつており、湾内の遊覧船も満員状態でしたが、湾内には未だに東日本大震災の津波被害の爪痕が生々しく残つておりました。その時は、私の住んでいる関東地区の蓮田市においても激しい揺れに襲われました。

2011年3月11日午後2時46分に起きた東北地方太平洋沖地震は、1900年以降マグニチュード9.0の超巨大地震として世界で6番目であることから予想を遥かに超えた大災害となりました。私はこの年の3月31日に市役所を定年退職しましたが、公務員としての最後の月を今まで経験したことのない災害復旧に追われたことを今でも思い出すことがあります。

退職と同時に、渡邊先生より事業団研修センターの講師との依頼を頂き、現在まで管きよ設



計1コースの現場踏査及び設計
図作成実習、積算演習の講師を
務めさせていただいております。
全国からの若い研修生が真
剣に取り組んでいる教室内は熱
気で満ちあふれており、毎回、
私も緊張感を持って研修生の皆
さんと一緒に研修課題に取り組
んでおります。

東北地方太平洋沖地震後、首
都直下地震、南海トラフ地震、

活断層地震、そして気候変動に
よる大規模水害と日本のどこに
でも起きうる大災害に対して、
研修生の皆さんには、それに對
してどう立ち向かっていくかを
常日頃考えて頂ければと願って
おります。

最後に、日本下水道事業団研
修センターの益々のご発展と研
修生の皆様のご活躍をお祈り申
上げます。

JS研修と私

(元) 新座市上下水道部長
(現) 新座市栄公民館長

土屋 誠



JS研修生7万人達成おめでとう
ございます。研修生の1人
として、下水道マンの端くれと
して心からのお祝いと、ここま
でご尽力された関係者の皆様に
敬意と感謝の意を表します。

さて標題の「JS研修と私」
についてです。もちろん最初の
関わりは、「みずのわ」読者の
皆様と同じ研修生としてです。
次いで講師、JS研修業務検討
委員と度々関わってきました。
研修生として、昭和58年1月正
月明け早々寒風吹きさす荒
川のほとりにひっそりと佇む研
修所で、4週間管きょ設計Iを
受講しました。ご存知の諸先輩、
ご同輩も数多くいらっしやると

思いですが、当時は、本館とプ
レハブの食堂、厚生棟、4人室
で机4台、2段ベッド2台にテ
ブル1卓というすばらしく寂び
た住環境の下、講義や密度の濃
い実習後、毎晩のスキンシップ
と情報収集でベランダには日本
各地の一升瓶の山、週末の都内
ディスコ(死語)巡りや西川口
探索で朝帰り。西川口駅前のサ
ウナに泊まったタフな同期生ら
とちよつと学び、よく遊びよく
飲んだものです。今でも、測量
設計できるほど鍛えられまし
た。33年以上経ち、私を含め多
くの同期が卒業した今でも交流
が続いていること、これこそが
私にとってJS研修最大の成果
といえます。全国の研修生の皆
さんも同じ思いをお持ちではな
いでしょうか。

講師については、どうして引
き受けちゃったんだらうと今で
も首を傾げるんですが、「もう
JSは無いな」と思っていた
昭和62年、下水道課長から管

きょ設計Iの講師をと指名され
ました。下水道事業を突っ走っ
ていた時期で、とてもじゃない
けど講師引き受けるほど暇じゃ
ないよなあって思いながらも、課
長命令みたいなもんですから、
渋々講師として数年間、その後
も管きょ設計IIの講師を数年間
お引き受けすることになってし
まいました。講師として研修生
と向き合った時、教えることの
難しさ、自分の力量の無さを、
いやってほど味わいました。し
かし、「人に教えることほど、勉
強になることはない」の言葉ど
おり、講師を務めたことで多く
を学び、自分を成長させる肥や
しのひとつになったと思ってい
ます。気が付けば、物事「まっいっ
か」って物事に柔軟な対応方の
図れる己がいました。また、時
には研修生と杯を傾げる会に声
をかけていただき、「フレッシュ
な出会いっていいもんだな」っ
て楽しい思い出も数多くありま
した。「ニシヤ アイアウ コレ
ヲ グウトナス(誰の言葉か失
念しました)」そんな想いです。

人事異動で、講師を離れた平
成22年の6月頃だったと思いま
す。JSから研修業務検討委員
会を設置するので、委員を委嘱
したいとお話をいただきました



た。「えっ、検討委員って何すんの?」、大学の教授や国・県のお偉いさん、そうそうたるメンバーに「おいらじゃ役不足」ってお断りしようと思っただけです。が、後ほど登場するW先生の「地方の代表で」という半ば強引?な勧めによりお引き受けすることになりました。

委員会では、下水道事業が新増設から効率的維持管理への変化に伴い下水道マンに求められるスキルの多様化、地方自治体の厳しい財政状況下での研修生確保、研修事業への国庫補助金削減への対応方として、J S 研修業務の現状と課題、魅力的な研修などについて検討しました。仕事環境、立場によってそれぞれの視点、考え方を持つて

おられ、大変貴重な経験を積ませていただきました。

またまた講師を引き受けちゃいました。私、平成28年3月末日を持って、38年間の公務員生活卒業と同時に検討委員も辞し、「やれやれ」とほっとしていたんですが、例の先生です、W先生です。卒業してやっとなの荷をおろせたと思ってた矢先、講師をとの話です。なぜかこの先生にあうと、いやと言えない私。よってただ今、講師の勉強まっさかり。「研修生しかるな来た道じゃもの、講師笑うな行く道じゃもの」の想いでもう一頑張りです。こっちの卒業はいっつになることやら。「みずのわ」の読者の皆さん、またお会いするかもですね。楽しみにお待ちしております。

さてさて、いよいよW先生と渡邊良彦教授の登場です。私の記憶が確かなら研修生の時の実習担当教官が、古今東西研修生の間で超有名なミスター研修生(?)と現渡邊良彦特任教授だったと思います。髪はふさふさ(最近?)で毛深く、スリーピースにニットタイ、随分とカッコつけしいだな(独り言)というのが先生の第一印象でした。渡邊先生には、「関東みずのわ」、

研修生、生涯の飲み友達S市のK氏などと一献酌み交わす機会に、よく声をかけていただいています。S市A温泉には三度も

ご一緒し、近隣の「みずのわ」会員と夜の更けるまで懇親を深めさせていただきました。出会いから既に33年以上の腐れ縁、よく続・・・。「朱に交われば何とやら」先生を始め、よき人、よき友のいる、よき環境に身がおけ感謝しております。また渡邊先生は、女性陣にも人気があり、話題も豊富で大変楽しく、とにかく目立つんです。街の喧騒の中、居酒屋、レストラン、どこでも先生の声はよくとおるのですぐに分かってしまいます。時には、「スピーカーのボリュウム下・・・」なんてことも。こんなにも全国的ネットワークを持つ先生は、研修PRの歩くビルボードのようです。研修生の皆さんそう思われませんか。

最後に、7万人達成がゴールではなく、J S 研修を通じて一人でも多くの熱き下水道マン育成を目指し、J S 研修センターの益々のご健闘とご発展、「みずのわ」の交流が一層深まるようご祈念申し上げます。私も微力ながら、できる範囲でご支援できればと思っています。



「講師25年、人脈こそ宝」

(公益財団法人) 埼玉県下水道公社中川支社

副支社長 大鹿 純一



研修生7万人達成、誠におめでとございます。これまで我が国の下水道の発展に貢献されてきた日本下水道事業団研修センターの輝かしい実績とお慶び申し上げます。

さて、スポーツカーと旅行が大好きな私が研修センターで最初に学んだのは30年も前。夜な夜な行われた濃厚なる本音のディスカッションはとても有意義で、研修生どうし絆を深めた懐かしい思い出ですね。もちろん、趣味の話も含めてですが！
初めての講師は平成4年。流域としては珍しいOD法の荒川上流水循環センターをゼロから立ち上げた経験から、OD法についての講義を依頼されました。これを縁に、小規模処理場

管理専攻に関する研修カリキュラム作成にも参画し、やがて勢いに任せて処理場管理Ⅰ・Ⅱ、水質管理、総合管理なども講義するに至りました。

平成18年、WTOの御旗を掲げ埼玉県に黒船来航。泰平の眠りを覚ます包括的民間委託が導入され、私が当初から監視評価業務を命ぜられました。外資参入による異文化体験は、なかなか刺激的で楽しいものでした。官民の騒めきが落ち着くまで監視評価者としての奮闘ぶりをネタに、包括的民間委託専攻の講義も続けていきます。

講義では、コスト削減や効率化を望むなら大きな看板や肩書に惑わされること無く最適を判断できる技術力を養うこと、即ちノウハウの集積と継承が肝要！ノウハウとは、理論のみならず実体験（特に失敗事例とカイゼン）に裏付けされた技術、即ち紙に書けないものこそが真のノウハウ。もし紙に書けたなら、それは単なるマニュアルだ！などと毒自論を展開してい





ます。研修生との情報交換も私にとつては大変有益です。今では維持管理コースのみならず、経営コースや計画設計コースまでも講師のご指名を頂き、身に余る光栄です。「知之者不如好之者、好之者不如樂之者」そう、もはや講義は楽しむもの！

楽しむと言えば、クルマ趣味も外せません。私の住む加須市は今やクラシックカーの聖地であり、加須観光大使が所有するクラシックカーミュージアムが世界的に人気です。私の大好き

な白洲次郎がイギリスで乗っていたベントレーを始め吉田茂のロールスロイスなど歴史的に非常に貴重なクルマたちが動態保存されています。メンテナンスが的確なら百年経っても現役、これは設備の維持管理と全く同じこと、整備技術即ちノウハウの大切さを物語っています。見学は無料、週末スタッフの私のご案内致しますので、是非一度ご来場を！日本の歴史の1ページを直に感じてください。また、毎年5

月3日(雨天翌日)、加須市民平和祭に併催して、KAZOKUクラシックカー・フェスタも実行しています。往年の名車が好きな方には垂涎のイベントとの評判です。ご来場をお待ちしています！

話を戻して、平成24年。JICA草の根支援活動において、海外派遣の技術指導員に選任されたタイ王国へ渡った時、現地では話を聞けば、過去に事業団による技術支援を受けていたとのこと。遠くタイ王国まで来ても事

業団との縁を感じ、事業団という共通点を持つことで夜の交流会まで盛り上がり、タイ技術者との信頼関係を深めることができました。

時の流れは早く、顧みれば事業団講師も途切れること無く今年で25年目を迎え、講義は約百回、千人を超える研修生と向き合いました。講義の評価は皆様にお任せしますが、これまで彩の国下水道での講演をはじめ、様々な講義や研究発表においては、事業団講師を務めたからこそ得られた貴重な情報が大いに役に立っています。そして昼の講義では言えない本音を語り合う研修生との夜会(お誘い大歓迎、気軽にお声掛けを!)、下水道の歴史は夜に作られるのです。そんな人と人との繋がりの大切さ、まさに人脈こそ宝であると深く感じ入っている次第です。

結びに、この四半世紀を振り返る機会を頂きました細川所長、渡邊特任教授をはじめ研修センターの皆様には深く感謝致すとともに、事業団が下水道の実践的ノウハウ継承の拠点として益々発展し、みずの和を以て貴しとなすことと衷心より願っております。



―史上初！ 兄弟同時研修受講記念―

〔司会〕

細川顕仁(研修センター所長)
(参加者)

星祐輝(研修受講生、福島県
喜多方市)

星将輝(研修受講生、福島県
須賀川市)

吉村治輝(研修受講生、山口
県防府市)

宮崎真(研修受講生、愛媛県
四国中央市)

羽山徳晃(研修受講生、熊本
県玉名市)

山本慎二(研修講師、熊本県
熊本市)

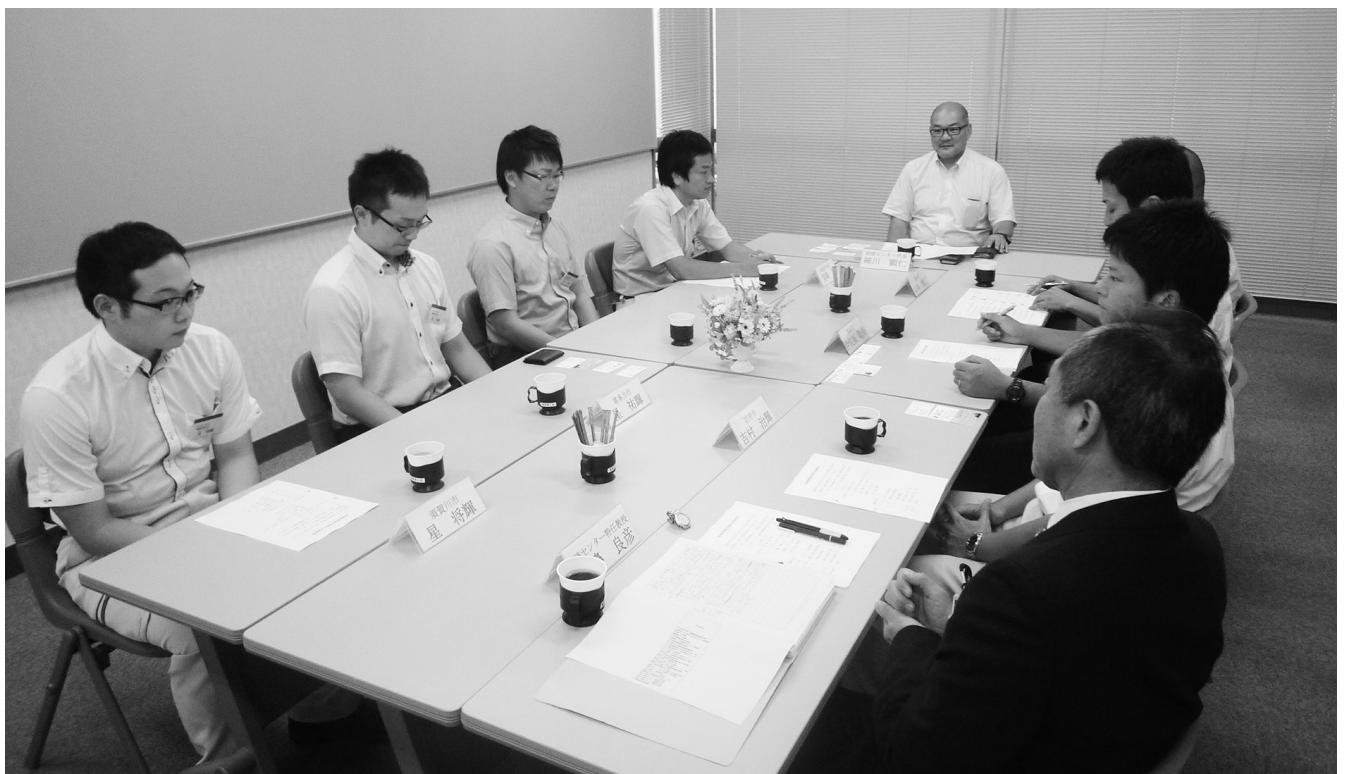
伊佐坂聡寿(研修講師、熊本
県熊本市)

渡邊良彦(コース担当教官、
研修センター特任教授)

○渡邊教官 本日は研修受講中
のお忙しい中にご参加いただ
きありがとうございます。私
も長く研修業務に携わってお
りますが、兄弟で同じ研修を
一緒に受講するというのは初

めての例でしたので、この座
談会を企画いたしました。夫
婦・親子という例はあります
が、兄弟が、しかも違う自治
体からそれぞれ参加というの
はかつて無かったことかと思
います。折角の機会ですので、
皆さん、忌憚の無いご意見を
言っていただければと思いま
す。
それでは本日の司会を当研
修センターの細川所長にお願
いさせていただきますので、よ
しくお願いいたします。
○細川所長 よろしく願いま
します。皆さん、リラックスし
てやりましょう。まず、手始
めに皆さんの地元のお国自慢
というか、これは全国に誇れ
るというものをご紹介くださ
い。それでは、星兄弟の弟さ
んからお願います。
○星将 須賀川市は、先ほどお
渡しした名刺、裏側見てもら
うとわかると思うんですけど
も、円谷プロの、特撮の神様

の円谷監督が生まれたまちで
ありまして、今、ウルトラマ
ンをメインに推し出してまち
づくりを進めています。大き
な通りとかですとウルトラマ
ンと怪獣のオブジェを置いた
りとか、駅前だとウルトラマ
ンのピカピカ光る目の街灯が
立っていたりとか、そういう
ふうな形でまちづくりを進め
ています。あと一応非公式で
すけども、恐らく世界で一番
遠い都市(光の国)と姉妹都
市になっています。
○細川所長 それは自慢できま
すね。ではお兄さんの喜多方
市・・・名刺の裏は・・・な
いですね。
○星祐 僕のは普通の名刺で
す。喜多方市はやはり日本三
大ラーメンの一つである喜多
方ラーメンが最も有名なもの
だと思えます。そのほかにも、
インターナショナルワイン
チャレンジというものが海外
であります、そこで日本酒
部門において去年グランプリ
をとりました、ほまれ酒造と
いう酒蔵が喜多方市にござ
います。喜多方市はもともと非
常に水が綺麗で美味しい事
で有名でしたので、それらを活
かした米や酒の生産が盛んで





した。また、ラーメンにおいてもおいしさの秘密は水にあるとも言われています。

○細川所長 ありがとうございます。では、玉名市の羽山さんどうぞ。

○羽山 玉名市はすごく自然が多い場所で、山もあり、海もあるようなところで、特産物がまずノリですね、次は山のほうでミカンがとれたり、江戸時代に作られた干拓地でのトマト・いちご等の農産物が多いですね。名所でいえば昔からの海上の便で俵ころがしというところがあって、そこから大阪まで農産物を運ぶような場所があったり、古墳とかも結構いろいろあったり、歴史がある場所も多いですね。中でも一番古いのが、玉名温泉というのがありまして、まだ知名度は低いんですけど、これから僕ら役所職員はどんどん広めていかないといけないかなと思っています。最後に、先ほどラーメンの話が出たのですが、玉名市にも玉名ラーメンがあります、熊本ラーメンとは全く別物の。玉名には温泉もあり、自然もあり、ラーメンもあるすごくいいところなので、機

会があれば是非お越し下さい。

○細川所長 はい、行きました、玉名温泉。では次、紙の街、どうぞ。

○宮崎 四国中央市は「紙のまち」で、日本国内で生産額第

4位の大王製紙があります。また、その他にも紙製品等の会社があり、そのおかげで紙製品の工業製造品出荷額が全国第1位です。ティッシュペーパーで「エリエール」を見たら、四国中央市を思い出して下さい。また、和菓子で自慢の「霧の森大福」があります。この和菓子は、「食わず嫌い」で紹介されたことがあり、インターネットの販売でランキングが1位になったこともあるそうです。渡邊先生にお土産として「霧の森大福」をお渡ししていますので、味の感想は先生に聞いてみて下さい。

○細川所長 ありがとうございます。では、吉村さん。

○吉村 名刺のほうにもちょっと写真を入れていっているので、防府の名所としまして、学問の神様で有名な防府天満宮がございます。受験シーズンとかになると多くの参拝者

さんに来ていただいております。あと最近で言うと、昨年の大河ドラマで「花燃ゆ」という吉田松陰の妹さんの話がありました。その妹さんのお墓が防府市にあるということで、少しだけ話題になりました。名産品としてはハモが有名で、ハモ雑炊とかがおいしいと言われております。来られる機会がありましたら、一度食べていただけたらなと思います。

○細川所長 お待たせしました。最後に講師の熊本市もどうぞ。

○山本 今年度になって揺れに揺れた熊本市です。熊本市、お国自慢といったときに一番最初に思い当たるのは、やっぱり熊本城ですね。三大名城と数えられるほど城マニアの方たちの中では人気がある、由緒もある城だったんですけども、先日の地震で大きなダメージを受けてしまいました。熊本市としてもシンボルマーク、ランドマークが大きく傷んでいるので、頑張らないうとかなるところでスタートしたような状況ではあります。あと熊本市は、いろんな市町村に囲まれていますので

アクセスとしてはいいんですけども、そのかわり観光客が熊本城を見た後、方々に散ってしまおうという観光上の課題もありました。東に向かつて行けば阿蘇山、ちよつと南西に向かつて行けば島がたながっている天草地方に行けます。その分、それらの地方の美味しいもの、肥後の赤牛、天草大王という鶏、天草地方の魚などが熊本には集まりません。あと、お酒としては熊本は米焼酎ですね。羽田からモノレールに乗ってくると看板がいつも見えるので安心するんですけど、「白岳しろ」というものがあります。関東に地元焼酎が置いてあるというのはいずれいい気持ちになりますね。あとは、これは本当なのかどうかわからないんですけど、美人が多いと言われるんです。地震からの復旧・復興で皆頑張っていますので、是非お越し下さい。遊びに来ていただけると、色々楽しんでいただけるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いします。

○細川所長 熊本美人、聞いたこともありませんし、熊本は度々訪れているので実感もありません。では本題に入りましょう。まず今回皆さんは「管きよII」の研修を受けていただいていますけれども、皆さんのところでこの研修、事業団の研修って、「お前行ってこい」と言われるのか、自ら手を挙げて参加したのか、どちらなんですかね。手を挙げて来られた方というのは……

○吉村さん だけですか。あとの人は「行ってこい」ですか。「行ってこい」だったのに、兄弟がそろっちゃったという……これはすごいですね。参加する研修コース自体は、例えば、今年はこの「管きよII」に出しますよというのが決まっていたんですか？

○一同 そうですね。

○渡邊教官 幹事の宮崎さんは課長からのご指名だったんですよ。

○宮崎 そうです。四国中央市は下水道課に配属されるとまづ「管きよII」を受講していただきます。課長も昔「管きよII」を受講し、その時に渡邊先生に大変お世話になったと聞いています。

○細川所長 ご兄弟のほうはどうですか。

○星将 僕もそうですよね。入っ

て2年目なんですけど、去年入った段階で、星君は来年度事業団の「管きよII」に行ってもらおうからと言われてました。

○星祐 僕は市役所に入って一年目ですが色々と学んできてほしいとのことでしたので研修に参加することになりました。

○吉村 うちの課も入ってきたらまず行くような話になっていて、自分の場合は、本当は去年行くはずだったんですけど、先輩がいらして、先輩が先にといいことになりました。

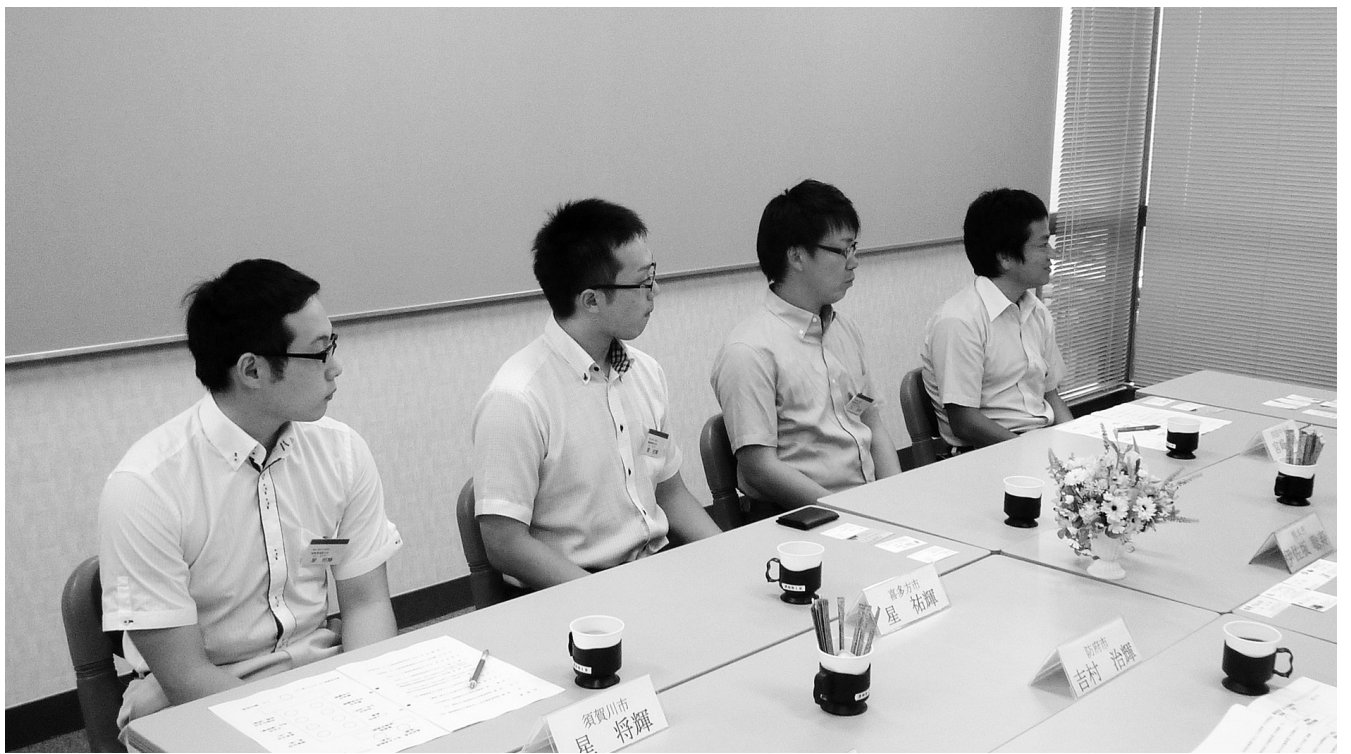
○細川所長 毎年ですか？それはずっと「管きよII」で。

○吉村 そうですね。

○細川所長 なのになかなか行かせてもらえない。そこで今年自らから手を挙げたということですね。

○吉村 下水道に来て3年目になるんですけど、1年目のときから行きたい、行きたいと言いつづけて、ようやく順番が回ってきました。どうしても先輩が先という流れもあって。

○細川所長 「管きよII」以外の専攻はどんな感じですか？



- 吉村 「管きよI」は行ってはいないんですけど、「管きよII」と「管更生」と「維持管理」と……
- 渡邊教官 防府市は1人の方を複数回出す計画を当初から組んでいますよね。
- 吉村 そうです。今の係長たちは殆ど全部行っています。
- 細川所長 そうなのって、ほかの市もあるのですか？
- 渡邊教官 玉名市もそうですよね。
- 羽山 そうですね、昔は。ただ、今はちよつと。
- 細川所長 それは予算の関係ですか？
- 羽山 そうですね、予算の制約がありますね。事業団の研修受講料が値上げされたことも影響しています。
- 渡邊教官 須賀川市もそうですよね。
- 星将 そうですね。
- 細川所長 須賀川市からは維持管理コースまで皆さん来られていますよね。
- 星将 はい。
- 渡邊教官 「管きよI」に来たら、次に「管きよII」か違うコース。上下水道部になり今度課長職になった人は、次は「処理場管理II」にも来ますよね。
- 星将 そうですね。
- 渡邊教官 「管きよII」に私のコースに来て、次が「処理場管理II」に来て、施設担当になったんですね。
- 細川所長 管きよばかりじゃなくて、管理も。
- 渡邊教官 はい。そういうふうに移行してくださっていますね。
- 細川所長 今日ご参加いただいている講師の方はもう何回も受講されていますよね。
- 山本 はい、私は4回。
- 伊佐坂 私も4回です。
- 細川所長 ちなみに研修受講生の皆さんは初めてですか。
- 一同 初めてです。
- 細川所長 是非何回も来て下さい。ちなみにこれまでの最多記録って何回ぐらいですかね。
- 渡邊教官 私の記憶では10回という方がいます。それに近づこう、並ぼうとしていたのが今講師として参加されている某市のさるお方でございますね。
- 細川所長 その方は何回ですか？
- 渡邊教官 8回。その市、上下水道、一緒になってしまいましたが、それでも人材育成で若い人を優先して送るということになって……以前は新たに話題となっているような研修があれば来てくれていたんですが、最近ちよつと出番が少なくなつたみたいですよ。
- 細川所長 難しいですよね。限られた予算の中で色々な人を派遣したい、その一方で、色々な技術をお一人が身につけるといいうのもありますしね。皆さん、ぜひ10回を目指してください。
- ちよつと話はかわりますが、冒頭で話に出ましたご兄弟で同じ研修を受講する。これは実際どうなんですか。本当に偶然なんですか。
- 星祐 そうですね。
- 細川所長 知ったのはいつですか？
- 星将 知ったのは僕が先ですね。僕は昨年から下水道の仕事をしていて、後から兄が喜多方市に入ったのですが、兄に今年こういう研修があるので、この時期ちよつとじゃないかもしれないという話をしたら、兄もその研修に行くかもしれないって言われて。その時は、日付はまだ未定だったんですけど、時期が決まったら、俺8月になったっていう話をしたら、兄も8月で。
- 細川所長 その話聞いたときって、どうでしたか。弟としてはやっぱり嫌だなと思いましたが？
- 星将 複雑な気持ちだったですね。
- 細川所長 お兄さんはやっぱり、よっしゃって。
- 星祐 いや、僕は別にそんなに深い考えはなくて。自分が行く研修先に弟がたまたまいるぐらいにしか考えていませんでした。
- 細川所長 実際、研修も2週間近くたつてどうですか？
- 星将 ふだん実家とかで接しているよりも、むしろ会話は少ないですね。本当に廊下とかで会ったときに一言、二言話すくらいです。
- 星祐 部屋も違うしね。
- 星将 部屋もそうですね。分けてありますね。
- 星祐 食事も離れて取りましますね。
- 星将 はっちゃけられないですね、監視の目があるみたいな感じで。
- 星祐 お互いにちよつと気まづいですね。
- 渡邊教官 それは確かにそうかもしれませんがね。兄弟で同じコースというのは考えものかもわからないですね。
- 細川所長 ありがとうございます。皆さん今回が初めての研修受講ということなので、何でもいいので、感想とか、こういうところはちよつと変えてくれたらいいかなというものがありましたら教えてください。じゃ、今度はこちらから行きましようか。
- 吉村 研修内容としては大満足しております。施設見学とかも連れていっていただいていたので、シールド工法を見せていただいたんですけど、今まで見る機会もなくて、ビデオとかで見せていただくことはあつたんですけど、実際に立って坑の中に入って、工事が完了した様子を見るというのがなかったもので、すごくいい経験ができたなと思っております。1点お願いしたいのは入浴時間の延長です。門限は23時半で、結構長目にとつていただいているとは思っているんですが、お風呂が22時半までに上がらなければいけないので、できれば23時まで延長していただけるとありがたい



たいですね。わがままかも知れませんが。

○細川所長 ありがとうございます。ました。では宮崎さんどうぞ。

○宮崎 研修期間が3週間ということで、初めは長いなど思っていました。でも、研修内容が管渠の設計や土質試験など充実していますので、今はとても短く感じています。本当にいい研修だと思えます。私からの要望は食事の時間です。今、研修の幹事をさせてもらっているのですが、毎朝8時に渡邊先生とその日の講義等の事前協議をします。朝食は7時半からなので、可能であれば7時からにしてほしいです。朝食や準備の時間をゆつくりとることができるので、ご検討お願いします。

○細川所長 やっぱり生活してみないと分からないことありますね。では羽山さんいかがですか？

○羽山 いつも話している内容が出ちゃったので、私からはお金の話をさせていただきま。うちの市も、本当であれば技術向上で毎年出したいのですが、やっぱり金額の面で、各係から1人というふう

に決まっています、もう少し優しい値段になるといいなと思います。難しいとは思いますが。

○細川所長 耳の痛い話ありがとうございます。熊本は今年度からJIS研修も市町村振興協会からの助成対象となりました。色々条件はあるようですが、ぜひそういうものも活用してみたいかがでしょうか。では星さん。

○星祐 この研修に参加してみても、私はちょっと従事している期間が短かったので最初不安だったんですけども、すごく毎日毎日内容の濃い講義を聞かせていただいて感謝しています。あとは、先ほど吉村さんもおっしゃっていました。たけど、あんな大きな規模のシールドなんて私の都市にいたら絶対見られないもので、やっぱり事業団でこういう大きい研修をやっているからああいうものが見られたのかなと思います。色々すごくいい経験をさせていただいたなと感謝しているところですけれども、1つだけお願いがあります。それはバスの運行時間です。夕方の食事が17時半からで、最後の出るバスが18時

10分なんですけども、その後で、18時半とかにもう1本ふやしていただくとありがたいです。17時半頃の食事は結構混み合ったりして、それで18時10分のバスを諦めるときとかたまにあるので、それが1つだけ。

○細川所長 では最後に将輝さんどうぞ。

○星将 もう最後で、ほぼ皆さん言われて、言うことがないんですけども、本当に研修内容に関しては全然不満とかそういうのはなくて、いい機会だなと思いました。福島県では土木の研修はあるのですが下水道専門の研修とかほぼなくて、こういう専門的な知識を学べるというのはなかなかないことですので、僕としては大変助かっています。不満な点は1点だけなんですけど、ドラム式の洗濯機で洗濯乾燥にするとなぜかエラーになつて途中で毎回とまっちゃうんです。

○渡邊教官 この前のコースで言われて、修理するよう頼んでいたのですがまだ対応されてなかったんですね、すみません。

○細川所長 皆さん気を遣って

いただいてか、研修内容については本当に満足いただいているということですね。研修期間の最後にアンケートを出していただいていますのでお気づきの点がありましたら遠慮なく書いてください。あれは全部見えていますので。アンケートは唯一、我々に届く研修受講生の生の声ですので、ぜひよろしく願います。

○星将 私、この研修に来る前から、推進工法についてとにかく学びたいという思いが強くありました。今日から推進工法の講義が始まりましたので、その推進工法のほうをちゃんと身につけて、しっかりと覚えて須賀川市に帰って、須賀川市、まだまだ推進工法の現場がいっぱいあるので、そのほうで役立てればなというふうに思っております。

○星祐 私も弟と同じですね。もう今年の工事は全部発注していますが、戻ったらぜひ今回学んだことを活かしていきたいと思っております。

たいと思っております。

○細川所長 ありがとうございます。頑張ってください。

○羽山 今回の研修で、今まで開削だろうが、推進だろうが、ここまで計算してするんだというのがちょっと無知で知らなくて、いろいろ刺激を受けました。そのほかいろんな市町村から研修に来るといこととで、様々な都市の話を聞いて、刺激になって、今後も貪欲に知識を得て、勉強を頑張っていこうかと思っております。

○宮崎 私は、入庁して15年経ちますが、今年初めて下水道課に配属されました。下水道の知識は全くなく、研修で少しでも知識を増やしたいと考えています。また、当市の下水道課は、毎年人員が減らされています。現在、管渠整備の工務係は4名です。研修期間中は、私が不在なので、3人で業務を行っています。今回の研修で得た知識を活かし、少しでも工務係の方々の負担を軽減できるよう頑張りたいと思います。

○吉村 今回は職場を代表して来させていただきましたので、職場に帰ったら、まだ行って

いない後輩もいっぱいいるので、ちょっとでも、何か教えられるようなことができたらいなと思っております。研修もあと1週間となりましたが、いっぱい盗んで帰りたいなと思います。

○細川所長 先輩として研修を4回も受けて、かつ、今回講師として来られているお二方、一言ずつどうぞ。

○伊佐坂 私は過去4年連続で来させていただきました。一番最初に受講したのが平成24年のこの「管きよ設計Ⅱ」で、開削と推進の設計、積算を勉強させていただきました。ここで学んだ知識、手法などを

実践現場に帰ってやってみる。それで、こちらで学んだことは知識の一つとして、その後のステップアップとして、現場の手法とか色々なやり方、工法も取り入れていくようにしました。色々経験して、正直ここで習ったことだけが全てじゃないというふうにも思ってきましたが、ここは基礎としては非常に重要なところだと改めて思っています。皆様もこの研修で学んだことを生かし、これまで教えてもらってきた先輩の鼻をへ

し折るぐらいの感じで戻っていただければと思います。それから明日、講義させていただきますが、その中で皆さんから何か一つでもためになつたと言っていただけのように頑張りますので、よろしくお願います。

○細川所長 最後になりましたが山本さん。

○山本 明日、明後日と終盤のところのコマをお任せいただいている状況で、今、隣で伊佐坂がすごく意気込んでおりますので、期待していいんじゃないかなと思います。私は「管きよⅡ」は受講したことはないんですけど、講師として、集まられている各自自治体職員さんの力に少しでもなれるようなものをお話しできたらなと思っております。また、私自身もここで講師をやることの一つの勉強、経験だという気持ちで来ております。どうぞよろしくお願います。

○細川所長 渡辺先生、何かございませうか？

○渡邊教官 もう何も申し上げることございません。これだけ評価もいろいろいただながら、先ほどから出ていますように、この「管きよ設計Ⅱ」

だけ受ければ下水道が全てわかるわけではございませんので、段階的な研修を業務に合わせお考えいただき、ぜひリーダーとしてまた研修センターへ戻ってきていただきたいという切なる希望を私の最後の言葉としたいと思います。ありがとうございます。

○細川所長 あと4日間となりましたけども、楽しんで帰っていただければと思います。本日はどうもありがとうございます。



同窓会二二コース

第23回「外崎会」

東京都あきる野市で開催

(元) 秋田県秋田市総務部

部長 木内 鑛生



ついに我々の仲間から市長が誕生しました。建設部長、総務部長、そして消防長まで、各地域で輩出している外崎会ですが、残念ながら下水道事業管理者に就任した者は未だおりません。

我々の仲間とは、「昭和56年度計画設計認可コース」の研修生の会「外崎会(とのさきかい)」の会員です。今年の7月3、4の両日、市長就任のお祝いを兼ねて、東京都あきる野市で23回目の同期会を開催しました。

外崎会は、その冠に頂く担当の外崎克久助教授と、北は北海道岩見沢市、南は鹿児島県加治

木町から参加した29名の修了生による30名の同窓の会です。

昭和57年(1982年)に熱海市で開催して以来、23回目の開催となりました。3年に2回の割で旧交を温めてきたこととなります。現在の会員は、物故者2名、住所不明者3名、公務員退職者が23名、そして現役

が2名(推定)となりました。34年もの長い間続いている当会の歴史的貴重な事実を、「みずのわ」で紹介する役目を、秋田市の木内が担うことになり、こうして拙文をしたためております。

さて、センターから頂いた「みずのわvol.49」を拝見して驚きました。研修実施計画の内容が当時と大きく変わっているのです。当然でしょうが、浸水シミュレーション、アセットマネージメント、エネルギー利用、地震対策、管更正、液状化対策等、当時では考えられないグレード

の高い内容であることを知りました。平成5年(1993年)に下水道事業から離れ、平成22年(2010年)に秋田市役所を退職した我が身は、全くの「浦島太郎」でした。今は下水道普及による良好な環境を満喫している老人であることを実感したのです。

しかしながら、下水道事業に19年在籍した男の意地、乙姫様の玉手箱の煙に消されないように、伸びきった脳みそのしわを強引に縮め、30年以上の前のことを思い出してみました。

当時は、流域下水道事業が本格化したことによる関連公共下水道への認可変更、農業集落排水事業の台頭、合併浄化槽の復活等、下水道計画の担当者は最適整備手法の選択を強いられていた時代でした。選挙で選ばれる首長には市民の賛同が必要でした。市民の負担の多寡が最大の関心事で、農林水産省や厚生省が推奨する整備手法のコスト計算は難解で、現在のような下水道の一元化など及びもつかなかったのであります。

そんな課題を抱えて参加した計画設計認可コースの研修生には、この研修の成果を首長に報



告する重大な責務を負わされて
いました。建設省(当時)、東
京都、横浜市の教授陣の授業を
熱心に聞きました。授業は活発
で、舌鋒鋭く質問を浴びせたも
のでした。一番期待したのは建
設省下水道部長の特別講話だっ
たと記憶しています。

長室で撮影しました。出席者は、
写真左より、吉田健二(鎌倉市)、
鈴木輝夫(横浜市)、三垣千秋(岡
山市)、澤井敏和(あきる野市)、
山口淳一(越谷市)、戸田敦(札
幌市)、木内鑛生(秋田市)、本
郷朝次(あきる野市)の8名で
した。

さらに、下水処理場の改築や
下水汚泥の資源利用、合流式下
水道の改善、集中豪雨に対する
雨水対策等の課題もすべて、こ
の計画設計認可コースの研修に
頼っていたのであります。とは
いえ、研修を受けて最適整備手
法の結論が出るわけではありま
せん。この結論は、夜の研修会
に持ち越されるのであります。
経験豊富な者と初めて下水道
に携わった者の間で、年齢は逆
転していても、真剣な議論がな
され、その潤滑油は、地元から
差し入れされるお酒や特産物で
した。

同期会当日、秋田空港から羽
田空港、東京駅から立川駅、青
梅線の拜島駅、五日市線の秋川
駅と乗り継いで、東京都は面積
は狭いが住宅区域は限りなく広
いなど改めて感心しながら、有
名な秋川渓谷を誇るあきる野市
に到着しました。新市長の出迎
えを受け、恒例の集合写真を市

都合23回目、秋川駅前の中
華料理店での話題は、東京に
いる孫の話、全国注目の東京
都知事選、そして必ず出るのは
研修時代のエピソード。初
日から時間に間に合わず食堂
のお姉さんにお預けを食らっ
たこと、二日酔いで授業中
の退席、夜の西川口駅周辺の
散策などの他愛のないことば
かりです。交通事故で病床に
ある22回連続参加の島原市の
西田康夫さんの早期回復を
祈って宴を解きました。次回
は東京オリンピックの頃に、
千葉県での開催を決めました
が、無謀な計画設計となるで
しょうか、乞うご期待です。

厳しい環境で大変忙しく働い
た19年間の下水道時代でした
が、私の座右の銘は「上善如水」
です。荒ぶる水を体験して来て、
理想郷を求めていたのかも知れ
ません。

「みやまふく」の輪 新たな地で

さらに広く、さらに深めて

福島県須賀川市産業部商工労政課

技査 青木 勝広



この度、記念すべき「みずのわ」
第50号の発刊に執筆依頼を頂
き、大変光栄に思っております。

私が勤務する須賀川市は、福
島県の中心から南側に位置す
る、人口約7万7千人の地方都
市です。花火師による尺玉の競
演や音楽創作花火など一万余の
花火が楽しめる夏の風物詩、積
迦堂川花火大会や日本三大火祭
りのひとつであり、420年以
上の伝統を誇る松明(たいまつ)
あかしなど、市外からも多くの
方が訪れるイベントがありま
す。須賀川牡丹園や大桑原つつ
じ園などの見ごたえのある観光
施設も有名です。また、特撮の
神様といわれる円谷英二監督の

出身地として、M7.8星雲光
の国と姉妹都市となり、市内に
はウルトラヒーローたちのモ
ニュメントが多数設置されてお
り、それらを見ながら散策する
楽しみもあります。

東日本大震災では、震度6強
の揺れを体験し甚大な被害が生
じました。道路や上下水道など
の生活関連施設も大きく破損
し、日常生活に大変な影響を与
えました。市庁舎も大きな被害
を受け、震災後は市の行政機能
を4ヶ所に分散し、業務を行っ
ておりましたが、今年度市庁
舎が完成することとなっており、
更なる復興を目指しています。

私は現在、下水道関係部署か
ら離れてしまいましたが、この「宮
山福会」に入会することとなっ
たのは、事業団の研修生として
平成22年9月の管きよ設計Ⅱ
コースに参加したことです。渡
邊良彦先生のコースではありま
せんでしたが、渡邊先生と何度
も話させていただく機会があり

ました。このことが、「宮山福会」
入会の大きなきっかけである事
は間違いないと思っております。

事業団での研修は、私にとっ
て初めての長期間となる研修で
した。全国 各地から多く研修
生が参加され、仕事面は当然な
がらも、その他多くのことにつ
いて話し、共に外出をすることに
により交流を深めることができ
き、大変有意義な時間を過ごす
ことができました。

また、事業団からの依頼で(渡
邊良彦先生)、東日本大震災で
被災経験した自治体ということ
で、「液状化体験」、「復興の現
状と取組」、「災害査定の実務解
説」についての講師を2度務め
させて頂き、大変貴重な経験と
なりました。

今年度の「宮山福会」には(福
島地区)事務局の立場として参
加させて頂きました。「宮山福会」
とは、渡邊良彦先生の親しみや
すい人柄に惹かれた宮城県、山
形県、福島県、その他関東地区、
岩手県、京都府長岡京市の下水
道事業団研修生OBの方々による
平成4年から続く歴史と伝統の
ある集まりと認識しております。
そして、今回は第23回目とし
て、初めて福島県内での開催と
なり磐梯熱海温泉「華の湯」に



集まりました。今回、新たに入会された方、久しぶり参加された方を含めまして27名の方々が参加し、各地の地酒を飲みながら盛大に宴が繰り広げられ時間が経つのを忘れてしまうほどでありました。

「宮山福会」の繋がりは、下水道から離れていても親しく楽しめる機会であると思います。今後ますます「宮山福会」が継続し、より多くの研修生の方々が入会し発展していくことを願っております。

最後になりますが、事業団研修センターの益々のご発展と、研修生皆様のご健勝・ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

「JS研修 みずのわ」50回目の発刊と、延7万人の研修生の輩出、誠におめでとうございませす。心よりお祝い申し上げます。

本同窓会「さいと会」は、埼玉・さいたま市の「さい」+ 東京都の「と」から命名されています。埼玉、東京の名所・旧跡等を訪れ、歴史や文化に触れながら懇親を深めています。会の歴史は古く、JS研修部発足三年後の昭和50年、埼玉県(旧)大宮市と東京都の講師、研修生で行った懇親会が始まりだと聞いています。現在の会員は、JS、県、市、都の創設当時からの皆さんに加え、近年では市から都へ出向した方、その方と一



「さいと会」
歴史や文化に触れながら
東京都下水道サービス(株)施設管理部
部長 松島 修

緒に仕事をした仲間など約70人が名簿に名を連ねています。

会の幹事は、さいたま市と都が交互に務め、これまで埼玉では、「大宮公園」「盆栽村」「鉄道博物館」「見沼田んぼ」など、都では「六本木ヒルズ」「三河島水再生センター」「墨田区両国境界」などを会場に行われてきました。

私は、都側の事務局をさせていただいていますが、まだ新参者です。平成20年下水道機構に出向していた時、さいたま市の元建設局長の松本さん(当時、計画課)にお誘いを受け、以前に浦和に住んだことがあって、さいたま市に馴染みもあることから参加させていただくことにしました。初めて会に出席すると、都側はJSで講師をされた錚々たる顔ぶれで大変緊張したことが記憶に残っています。

さて、今回は都が幹事。開催日は28年6月11日。3年前に一度企画したものの早春の嵐で無念の中止という苦い経験があり、

一緒に幹事をしている綿貫さんと天気を心配しましたが、当日は朝から晴天、梅雨を感じさせない暑い日となりました。常連であるJSの渡邊先生、長澤先生はじめ20名の方に参加いただき、芝浦水再生センターの上部に開業した商業ビル「品川シーズンテラス」(港区)が会の舞台です。

一昨年、皇太子同妃両殿下がご視察されたコースに沿って、高層階からの眺望、品川駅周辺の開発状況、環境に配慮した建築の工夫、下水熱・再生水の利用などを見学しました。高層ビルと一体的に整備された緑豊かな公園には、たくさんの親子連れが訪れ、ピクニックや水遊びなどを楽しんでいて、まさに都会のオアシスという感じでした。

見学後の懇親会は、品川シーズンテラス2階、レストラン街の「やきとん」屋。最近、昼間からビールを飲む人のことを「クールビズ」ならぬ「ビールクズ」と揶揄しますが、何と云われてもお昼から飲むお酒は格別です。冷たいビールと近隣の芝浦市場直送のバラエティ豊かな豚料理に舌鼓をうち、話題は、JSでの研修の思い出、趣味のこと、次回の企画などで大いに盛り上がり、あつという間の2



時間。私自身も皆さんから元気をいただきました。そして、お互いの健康と再会を約束し散会となりました。(後日談ですが、この後も二次会、三次会と梯子として終電と競争する事態となった輩もいたとか・・・)

この原稿を書きながら、JSの研修で培ったのは、ただ実務上のスキルにとどまらず、何も

のにも代えがたい「人のつながり」であったと感謝の思いを新たにしました。これからも回を重ね、皆さんと末永く交流を深めていきたいと思えます。

最後になりますが、JS研修センターと関係の皆様のご発展、そして、全国の「みずのわ」がますます広がることを祈念申し上げます。

『熊本会』から

『みずのわ』への繋がりに

熊本市上下水道局
計画整備部計画調整課

課長補佐 岡本 吉弘



この度、下水道事業団研修生7万人達成おめでとうございませす。心よりお祝い申し上げます。私も、事業団研修に参加した一人として、この7万人達成に貢献できて大変嬉しく思います。今後は、研修生10万人達成を目指されて、更なる下水道事業団研修センターの発展を祈念しております。

さて、表題の『熊本会』は、毎年3月に渡邊先生(檀原市観光大使)が来熊される際、県内の下水道事業団研修生OB、OGが集まり盛大に執り行われます。昨年度は、33名が参加し先生と楽しい時間を過ごしました。

専らの話題としては、研修時の失敗談や私生活の近況報告、昨今の下水道に関しての会話ですが、参加者全員のことをつづさに覚えていらつしやる渡邊先生の記憶力には、ただただ驚くばかりです。きっと、人と人の繋がりを大切にされるからこそ、記憶が薄れないのでしょう。また、人脈の広さは観光大使として最適任で、益々活躍されることと存じます。そこで、この寄稿にあたって、下水道事業団研修に関する人と人の繋がりと人脈について一つ紹介します。

熊本市は、毎年、事業団研修に多くの職員が受講していますが、数年前より講師についても派遣しております。今年も私と同僚2名で7月に講師をした際に、恒例となっている熊本市と『関東みずのわ』懇親会を渡邊先生に企画していただきました。今回は、熊本地震後であったので「元気を出そう熊本会」

と銘打って、さいたま新都心と神楽坂の2箇所で開催されたところですが、メンバーは、下水道事業団の先生を始めとし、事業団へ出向されていた自治体の元先生、自治体の現職・OBの方々等で、地域や世代を超えた『みずのわ』繋がりとなっています。初めてお会いする方も乾杯のころには、旧知の仲であったように話しが弾み楽しい一時を過ごすこととなります。年に一度、酒を酌み交わすだけの関係ですが、この繋がりは深く、そして強いものとなっています。先の熊本地震の際も、早々に電話やメールで「ご自身やご家族は大丈夫ですか」「辛いでしょ」が頭張ってください」「必要な物資は有りませんか」等、沢山の励ましの言葉をいただき、大変心強く感じました。まさに『みずのわ』の名前の由来のごとく、一都市から全国の都市へと大きな繋がりが生まれております。今後は、この繋がりが永く、広く、より強く続いていけばと思う次第です。この紙面を少しお借りして、「元気を出そう熊本会」に参加していただいた、梶原様、土屋様、岡本様、大鹿様、山本様、粕谷様、稲田様、柴田様、青木様、川守田様、望月様、



土屋様、片柳様、森様、鈴木様、高橋様、長澤先生、佐々木先生、最後に渡邊先生、本当にありがとうございました。今後も末永く『熊本会』を宜しく願います。以上、簡単に『熊本会』の活動について紹介しましたが、各地でも同様な『みずのわ』が広まり、全国規模の『みずのわ』へ繋がればと期待を込めまして締め括りたいと思います。

最後になりましたが、平成28年熊本地震の際には、全国より下水道に関わる職員の皆様が熊本県に集結していただき、被災状況の調査や災害査定等にご尽力に努められたことに深く感謝申し上げます。復興までの道のりは、まだまだ遠いですが、支援していただいた方々の恩を忘れずに一歩一歩着実に進んでまいります。



「福岡みずのわ会」

福岡市道路下水道局計画部道路計画課

溝口 憲太



私は、5年前の平成23年度に

事業団研修の「実施設計コース管きよの設計Ⅱ」に参加しました。研修への参加申し込み後、渡邊先生より、渡邊先生担当のコースであること、先生と懇意にされている当時の部長によるしくとのお手紙をいただいたことを覚えています。

研修では、業務に役立つ知識を学んだだけではなく、他の自治体から参加されていた研修生の方々とも交流を深めることができ、非常に実りある楽しい研修でありました。

また、研修中には担当の渡邊先生から、都内某所に連れて行っていたいただきました。帰福後、先輩方等に報告すると「俺は連れて行ってもらうっていない」と

のこと。後にも先にもこの時のコースの数名だけだったかもしれない。

研修も終わり、研修を懐かしく思っていたところ、職場の先輩から3月上旬に、福岡に来られる渡邊先生を囲んで懇親会を開催するとの連絡を受け、喜んで参加しました。

この懇親会が「福岡みずのわ会」です。「福岡みずのわ会」は、現在まで35年もの間続いている会であり、始まりは、冒頭で出ていた部長を含め、渡邊先生と懇意にされていた福岡県と福岡市の3名の先輩方が、来福される渡邊先生の歓迎会を開いたことが契機と伺っております。参加者の共通点はただひとつで、「下水道事業団研修に参加した経験があること」で、研修時の思い出や、近況報告、またこれからの下水道についての話題で役職に関係なく大変大盛り上がり懇親会となりました。

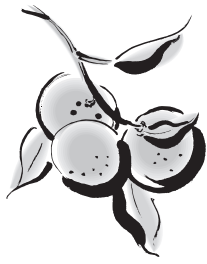
初めて参加した「福岡みずのわ会」が終わりを迎える頃、渡邊先生より、翌日は唐津を訪ね

ること、また、その日にも懇親会が開催され、研修で一緒のコースだった伊万里市の方も参加されるということで、懇親会のお誘いをいただき、酔った勢いもあり、急遽、その懇親会にも参加することになりました。

佐賀まで出向き、研修中のメンバーとも久しぶりに再会することができ、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

その後、「福岡みずのわ会」には毎年参加しており、毎回、「福岡みずのわ会」のメンバーに再会することを楽しみにしております。私が平成26年度から2年間、国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所に出向している際も、道路の部署にも関わらず「福岡みずのわ会」にお誘いいただき、欠かさず参加し続けており、親睦を深めることができています。

今年度から福岡市に復帰し、現在は道路計画課という道路の部署に配属されましたが、下水道という枠にとらわれず開催される「福岡みずのわ会」には、今後も参加していきたいと思っております。このように「福岡みずのわ会」は、渡邊先生を中心とした組織を超えた繋がりが最大の持ち味になっています。



今では、福岡県と福岡市だけではなく、宮若市や直方市からも来ていただいており、職種や役職を超えた幅広いメンバーが参加する「福岡みずのわ会」があることで、若手職員は、通常の業務ではお会いすることが無いような方々と、膝をつき合わせて色々なお話しをすることができているのは会の大きな魅力となっております。

今後も、先輩方の思いを受け継ぎながら、これからも「福岡みずのわ会」を、楽しく、有意義な会となるよう、盛り上げ役として参加するとともに、末永く会が継続できるよう微力ながら尽力していきたいと考えております。



退任教官紹介

研修に想いを馳せる

(元)J S 研修センター 教授
(現)(公益社団法人)日本下水道管路管理業協会

太田 秀司



私は、日本下水道事業団を2016年3月31日付で退職いたしました。

研修センター在職中は皆様には大変お世話になりました。あらためて厚く御礼申し上げます。

研修業務は、私がJ S に勤務した全期間の内の約3分の1を占め、締め括りの場所となったこともあり強く印象に残っています。今回、「みずのわ」の執筆依頼がいただきましたので現役では語れない裏話などを含め、研修の思い出について披露させていただきます。

研修では事前に受講予定の研

修生に、研修生活をお手伝いいただく役員やディスカッション課題の提出依頼のために電話でご本人の声を聞くことができず。実は、私にとってはここから研修が始まっているといっても過言ではありません。

研修の事前調査票に添付されている写真や電話の声から人となりについていろいろ想像してみます。時には強面の写真の人が大変丁寧な電話応対をしていただけたり、ノーマルそうな人がブルーな感じだったりどんな研修になるか研修への期待は膨らむばかりでした。

J S 研修は、長いもので3週間、短いもので1週間の研修期間があり基本的に1部屋に4人から7人の合宿生活となります。開講日、見知らぬ土地で見知らぬ人との合宿生活に緊張する研修生も少なくありません。

こうした場合、コース担当の先生の多くは研修生の緊張を溶

く術を持っています。私の場合、私自身が緊張しているので研修生の緊張は溶かれるどころか硬直状態となります。そのため、引きつった状態で開講時の懇親会に臨むことになり、お酒で緊張が解放された反動で異様な盛り上がりになることもしばしばでした。研修生が持参する地元の隠れた銘酒が振る舞われることも多く、戸田に居ながら全国の銘酒が味わえるのは役得でした。ご馳走さまで、ありがとうございました。ご馳走さまで、ありがとうございました。

研修は盛り上がりの頂点で修了式となるのが常でした。修了式は私の最も苦手な場面です。時間を共有した皆がばらばらになることにある種の郷愁を感じるときだからです。友との別れに号泣する研修生もいました。今でも下水道展に合わせて研修の同窓生が集まる席にお招き頂くことがあり、光栄に感じています。研修生はそれぞれ立派に成長し、各地域のために活躍のこととお慶び申し上げます。

研修を通じて学ばせていただいたことは多くあります。その一つはコース担当の心構えが研修に反映されることです。コース担当に就いた当初は教室の机の乱れやテキスト

の並び方をほとんど気にしませんでした。あるときそんな教室の研修に限って研修生の集力が欠如しがちなことに気づきました。

それからは、開講日に机の縦、横が一直線に整い、テキストが整然と並ぶ清められた教室内に研修生を迎えることにしました。これを境に、目を輝かせて受講する研修生や背筋を伸ばして聴講する姿が目にするのが多くなりました。何よりも私自身の研修に臨む姿勢が変わっていました。

研修に送り出した者、送り出された者の貴重な時間を考えれば1日たりとも無意味な時間はあつてはならないと。

退職後に私は公益社団法人日本下水道管路管理業協会(以下、管路協会と称す)に勤め、下水道関係の仕事が続けられることとなりました。管路協会は地震災害時などの管路施設の復

旧支援事業も行っており、先の熊本地震でも全国約100社に及ぶ協会員が支援を行ったところでございます。管路協会との災害時復旧支援協定は平成28年11月18日現在163の地方公共団体等と締結している状況です。県内丸ごと締結を希望するところも出てきており最近の災害の発生状況を反映したものと驚かされます。

地方にお訪ねした際に皆様にお会いすることもあろうかとおもいます。気軽にお声かけいただけたら嬉しくおもいます。では、皆様、元気にご活躍ください。



研修生同窓会の集合写真

新任教官紹介

日本下水道事業団上席審議役
兼 研修センター教授

生沼 裕



皆様、はじめまして。

平成27年7月31日付で日本下水道事業団に参りました生沼（おいぬま）と申します。

事業団では、本社での業務のほか、研修センターでも幾つかの講義を担当しております。

まず、簡単に自己紹介をさせていただきますと、平成元年に総務省（旧自治省）に入省し、総務省以外では、大阪府、福岡市、山口県などの地方自治体、環境庁、国土庁などの国の省庁、高崎経済大学、明治大学、北海道大学公共政策大学院などの教育研究機関で、主に地方自治・地方行政関係の仕事に携わってきました。大学以外にも、地方公務員の研修を行う総務省の自

治大学校に勤務していたこともあり、足掛け10年近く教官として仕事をしてきましたので、講義をすることにあまり抵抗はありませんでしたが、久方ぶりでしたので、初心に戻って準備に当たりました。昨年度は「改正下水道法に基づく事業計画の策定・変更に係る研修」（国土交通省委託事業・計4回）において、「企業会計化と経営戦略」について、また、本年度は、戸

田研修で、計画設計コース「下水道事業入門」の「下水道財政と課題」、「下水道事業の計画の策定・見直し」の「下水道財政の現状と課題」、地方研修では、「下水道経営セミナー」において「経営戦略」について一部の講義を担当しました。

総務省出身ということもあり、主に下水道経営に関して、総務省の取組みをベースに講義をさせて頂いておりますが、講義の内容を一言でいうと「現状と課題」人口減少社会かつインフラ大量更新時代において、

下水道経営を如何に持続可能なものにしていくか」について「方策」中長期的、戦略的（計画的）に、事業の最適化と負担の適正化（投資と財政のバランス）を図っていく」という、ある意味当たり前のことになろうかと思えます。もちろん、「言うは易し行は難し」ではあります。

当研修センターでは、この「言うは易し行は難し」の問題について、加藤壮一教授の経営コースの授業や地方研修・個別課題研修のほか、計画設計コース等において、具体的な解決方法などを学べるカリキュラムを多数用意しております。「経営」というと事務系の仕事と考えられがちですが、技術系の職員の皆さんにも是非、これらの講義を受講して頂けたらと思います。特に戸田研修は全寮制であり、同じ釜の飯を食った、かつ同じ悩みを抱えた研修生同士の交流が、後々まで大きな財産になつているという声が多く寄せられています。

是非、日本下水道事業団の研修にご参加ください。皆さんの受講を心よりお待ちしております。

研修センター教授

中村 芳男



皆様はじめまして。

日頃からJ S研修をご活用いただきありがとうございます。平成28年4月1日付け研修センターに参りました中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

研修センター勤務は初めてですが、平成5年から7年にかけて技術開発部技術開発課に所属しておりましたので、当地での勤務は二度目となります。当時研修実施部署は研修部という名称で本館2階にあり、隣室であったこともありよく行き来していました。今は1階に研修センターと下水道事業支援センター、埼玉事務所との組織構成となり、当時とは大きく変わったというのが第一印象でした。

自らが研修講師およびコース担当を行うに当たり、もう30年以上前のこととなりますが、受講してきた数々の研修コースを思い返してみます。J S研修で共同生活をご一緒させていただいた各自自治体の方々と体験したことは今でもはっきりと思い出すことができます。研修で知り合った友は、特別な存在であるとよく言われます。職場という枠組みを離れた中で共同生活をするにより、絆が強く結ばれた実感があること、出張先での再会そして情報交換したことなどが次々と浮かび、研修による技術の習得はもちろんですが本音で語れる貴重な友を得ることができたことが何よりの収穫であったと思います。いまもそのJ S研修の伝統は受け継がれています。

私は、維持管理グループに所属しています。維持管理グループでは実施設計（専攻5）、維持管理（専攻19）、民間研修（専攻8）の3コースを実施しており、私は今年度「実施設計コース処理場設計I」、「実施設計

研修センター教授



川 島 正

コース処理場設計Ⅱ、「維持管理コース」管きよの維持管理（第1回及び第2回）、「維持管理コース処理場管理Ⅰ（講義編）（講義編+実習編）、（実習編）（第1回及び第2回）、「民間研修コース下水道入門」、「コンサルタント研修技術者養成コース（機械・電気）」の各専攻コース担当をしています。

皆様はじめまして。

平成28年4月1日付で、東北総合事務所から研修センターに参りました川島と申します。どうぞよろしくお願いたします。

これを執筆している現在も、管きよの維持管理（第2回）が始まっており、地方公共団体の下水道管きよ維持管理を担当して間もない方々と一緒に、研修目標の達成に向けて日々過ごしているところです。研修生の皆さんには、J S研修を通じて広い視野を身に付けていただきたいと考えています。そして、何か少しでも掴んで持ち帰ってほしいと思います。

J S研修は、長いようで短い期間です。心に残る充実した期間となるよう、一緒にやってみましょう。

私は、昭和58年4月にJ Sに採用され、設計、施工管理、技術援助、技術開発、プロジェクトマネジメント等の業務に携わってきました。これまでに、勤務地は、東京4回、戸田市4回、大阪市2回、岩手県紫波町、同北上市、姫路市、つくば市、名古屋市、仙台市が各1回と目まぐるしく変わりました。

私自身も研修センターの研修受講は何度かあります。最初は

J S採用2年目に、記憶があいまいながら処理場設計Ⅱを受講したと思います。研修センターはかつて「研修部」と称し、大きな建物と云えば、現在の研修本館くらいでした。当時、浴室

は午後4時半には終了して、すぐ入浴ができ、浴室から荒川の堤防越しに夕日に染まる富士山が眺望できることで研修生から大好評でした。3週間にわたる研修の間、毎日が宴会だったような気がします。埼玉線は建設中で京浜東北線の西川口駅が最寄駅でした。寮室には前の研修生が残したと思われる西川口駅周辺マップがあり、いろいろ貴重な情報が書き込まれていました。

今回、4回目の戸田勤務となりますが、前3回は、すべて技術開発部でした。かつて、J Sの技術開発部門は研修センター所在地にあり、当時は「技術開発研修本部」といい、管理課、研修センター、技術開発部が置

かれていました。直前の戸田勤務では、技術開発課長の立場で平成21、22年度に在職しましたが、このとき、民主党政権下での国土交通省行政事業レビューによりJ Sへの国の補助金廃止の方向性が打ち出され、J Sの研修と技術開発が大きく変わる契機となりました。

まずは技術開発事業への補助金の削減が始まり、このこともあって、J Sの技術開発をより実践的な役割に強化することを目指し、技術開発部は本社の品質管理センター等とともに本社機構としての技術戦略部に再編されることになりました。このため、平成23年3月に技術開発研修本部は廃止され、研修センターのみが戸田に存続し現在に至ることになります。組織再編直前の超多忙期に東日本大震災が発生し、発災週明けから度重なる計画停電に襲われ大変苦慮しましたが、当時の技術開発研修本部の関係者の尽力もあって、このときの難局を乗り越えたことを思い出されます。

その後、研修センターも補助金廃止により受講料の値上げや民間研修の拡大など業務運営での環境は大きく変わったと思

います。しかし、すぐ近くから研修センターを長く見てきた者として、研修の質は決して落ちてはいないと思います。研修業務の実務は初めてである私ではあります。全国の自治体の皆様に質の高い研修の提供にしたいと思っておりますので、改めてよろしくお願いたします。



JS研修トリビア
〜研修あれこれ〜

第1回 数にまつわるお話

昭和48年2月の第1回研修実施からこれまでの43年の間には色々なことがあり、また延べ7万人を超える研修受講生には様々な方がいらつしやいました。研修機関誌である『みずのわ』50号発刊を記念して、これからJS研修(特に戸田での研修)に関係する種々の話をご紹介します。コーナーを設けさせていただきました。

まず第1回として、今号では『数』に関することをご紹介いたします。

- △研修受講生数(団体記録)▽
- 都道府県別ランキング
- これはお目にした方もいらつしやると思いますが、これまでの研修受講生数の都道府県別ランキングです。
- 第1位 埼玉県
- 第2位 愛知県
- 第3位 北海道

○団体別ランキング

団体別ランキングです。単純に数字だけのランキングでいえば日本下水道事業団が1位なのですが、これは反則なのでJS除きのランキングを発表します。

- 総 合
- 第1位 札幌市
 - 第2位 長野市
 - 第3位 秋田市
- 都道府県部門
- 第1位 秋田県
 - 第2位 新潟県
 - 第3位 三重県

- 政令指定都市部門
- 第1位 札幌市
 - 第2位 千葉市
 - 第3位 熊本市
- 一般市町村部門
- 第1位 長野市
 - 第2位 大分市
 - 第3位 長崎市

- 一般市町村部門
- 第1位 長野市
 - 第2位 大分市
 - 第3位 長崎市

△研修受講回数(個人記録)▽

続きまして個人記録です。通算記録と年間記録を調べましたが、なんと同じ方が第1位でした。これを破るのは至難の業ですが、是非とも皆さん挑戦してみてください!

- 通算記録
- 10回…O県Y町Iさん(第2位)
 - 8回…K県K市のOさん
- 10回の受講講座はといいますと、供用開始の準備と手続き、下水道の経営、指導、新任管理監督者、総合管理、処理場管理I、II、水質管理I、II、管理業務委託となっております。当時を知る人に聞きますと、この町が新規に処理場を供用するに当たり、この方が業務を一手に引き受けることになり、町長さんのご指導もあつて集中的に研修を受講されたそうです(処理場はJS委託で建設。JS職員としては感謝、感謝です)。

ちなみに第2位のOさんは、経営、計画設計、実施設計、工事監督管理、そして国際と幅広いコースを受講されており、平成24年度まで5年連続で戸田へお越しになつていますが、最近はその方針もあつてご無沙汰になつていと伺つています。

○年間記録

9回…O県Y町Iさん

このIさんのこの年度の研修受講日数を合計しますと、何と98日でした。最初の研修開始が6月6日で最後の研修終了が2月1日ですので実質8ヶ月241日のうち4割を戸

田でお過ごしになつたことになりませう。

このコーナーはネタが尽きるまで連載予定でいます。次号もお楽しみに!

(研修センター所長 細川 顕仁)



研修センター職員等紹介 (写真)



長澤専任講師

JS 研修センター

後列 左から 村元、甲斐、栗田専任講師、松本研修企画課長代理
 中列 左から 佐々木准教授、木村、荒木、高野、加藤教授、堀内専任講師、仲神、坂本
 前列 左から 渡邊特任教授、川島教授、本多研修企画課長、細川所長、高村次長、中村教授、内笹井教授 (兼) 調査役



(一財) 下水道事業支援センター



食堂

下水道技術検定及び下水道管理技術認定試験について

日本下水道事業団 研修センター研修企画課

○下水道技術検定とは

下水道法第 22 条において、下水道管理者（地方公共団体）は、下水道を設置・改築する場合の設計及び工事の監督管理並びに下水道の維持管理については、下水道法施行令で定める資格を有する者以外の者に行わせてはならないとしています。

日本下水道事業団では、下水道法施行令に定める資格取得のための「指定講習」を行っていますが、その他に資格取得のための「下水道技術検定」を実施しています。

同検定は、地方公共団体における有資格者の早期確保などを目的に創設された制度で、合格した場合下水道法第 22 条の資格取得について必要とされる実務経験年数を短縮する特例が認められます。

技術の内容に応じて「第 1 種技術検定」、「第 2 種技術検定」、「第 3 種技術検定」の 3 つの区分に分かれています。

また、平成 17 年 2 月 28 日付で下水道処理施設維持管理業者登録規程（昭和 62 年建設省告示 1348 号）が改正され、登録規程に基づき登録するにあたっては、第 3 種技術検定に合格し所定の実務経験年数を有する者を営業所ごとに置くことが要件となっています。

なお、維持管理の包括的民間委託契約においては、民間事業者側に下水道法施行令第 15 条の 3 に掲げる資格を有する技術者を置き、業務に当たらせることが必要となっています（平成 16 年国都下管第 10 号下水道管理指導室長通知）。

・技術検定の区分、検定対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、以下の表のとおりです。

検定区分		検定の対象	試験科目	試験方法
下 水 道 技 術 検 定	第 1 種技術検定	下水道の計画設計を行うために必要とされる技術	下水道計画、下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式及び記述式
	第 2 種技術検定	下水道の実施設計及び工事の監督管理を行うために必要とされる技術	下水道設計、施工管理法、下水処理及び法規	多肢選択式
	第 3 種技術検定	下水道の維持管理を行うために必要とされる技術	下水処理、工場排水、運転管理、安全管理及び法規	多肢選択式

○下水道管理技術認定試験とは

認定試験は、下水道管路施設の維持管理業務に従事する技術者の技術力を公平に判定し認証することにより、管路施設維持管理の健全な発展と技術者の技術水準の向上を図り、もって下水道の適正な維持管理に資することを目的にした制度です。

・認定試験の区分、試験対象、試験科目、試験方法

区分、試験科目、試験の方法については、以下の表のとおりです。

試験区分		試験の対象	試験科目	試験方法
下 水 道 管 理 技 術 認 定 試 験	管 路 施 設	管路施設の維持管理を適切に行うために必要とされる技術	工場排水、維持管理、安全管理及び法規	多肢選択式

○下水道技術検定等の実施内容

実施期日 例年、11 月前半の日曜日に実施しています（平成 28 年度は 11 月 13 日（日））。

実施場所 例年、全国 11 都市で実施しています（平成 28 年度は札幌市、仙台市、東京都、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市、鹿児島市及び那覇市）。

受験資格 受験資格についての制限はなく、誰でも受験できます。

その他 例年、5 月中旬に試験日程を公表しています。平成 28 年度の申込受付期間は、6 月 27 日（月）から 7 月 20 日（水）まででした。

○平成 28 年度の実施結果

第 2 種技術検定の受検申込者は 1,111 人、受検者は 911 人、合格者は 247 人となり、受検者に対する合格率は 27.1% となりました。

第 3 種技術検定の受検申込者は 5,955 人、受検者は 5,271 人、合格者は 1,248 人となり、受検者に対する合格率は 23.7%

となりました。

下水道管理技術認定試験（管路施設）の受験申込者は2,051人、受験者数は、1,818人、合格者は577人となし、受験者に対する合格率は31.7%となりました。

なお、第1種技術検定の合格発表は、平成29年2月3日（金）を予定しています（受験申込者は148人、受検者は92人）。

○技術検定及び認定試験に関する問い合わせ先

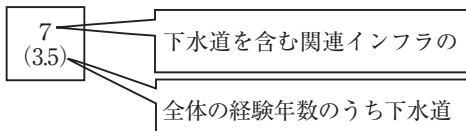
日本下水道事業団研修センター研修企画課 電話 048-421-2076

下水道業務に従事される多くの方々が資格取得又は技術向上のために、この技術検定にチャレンジされることを期待いたします。

<参考> 下水道法施行令第15条及び同第15条の3に定める資格要件

下水道法施行令第15条及び同第15条の3	(区 分)	(要 件)			資格取得に必要な下水道技術に関する実務経験年数 (注1)				
					計画設計 (注2)	監督管理等 (注3)		維持管理	
						処理施設 ポンプ施設	排水施設	処理施設 ポンプ施設	
第1号	新 制 大 学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下 水 道 工 学	7 (3.5)	2 (1)	1 (0.5)	2 (1)		
	旧 制 大 学	土木工学科又はこれに相当する課程	—	—	—	—	—		
第2号	新 制 大 学	土木工学科、衛生工学科又はこれらに相当する課程	下水道工学に関する学科目以外の学科目	8 (4)	3 (1.5)	1.5 (1)	3 (1.5)		
第3号	短 期 大 学	土木科又はこれに相当する課程	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	5 (2.5)		
	高 等 専 門 学 校								
第4号	旧 制 専 門 学 校	土木科又はこれに相当する課程	—	12 (6)	7 (3.5)	3.5 (2)	7 (3.5)		
	新 制 高 等 学 校								
第5号	前4号に定める学歴のない者	—	—	—	10 (5)	5 (2.5)	10 (5)		
第6号	新 制 大 学 の 大 学 院	5年以上在学（卒業）	下 水 道 工 学	4 (2)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)	0.5 (0.5)		
	新制大学の大学院又は専攻科	1年以上在学	下 水 道 工 学	6 (3)	1 (0.5)	0.5 (0.5)	1 (0.5)		
	旧制大学の大学院又は研究科		—	—	—	—	—		
	短 期 大 学 の 専 攻 科	1年以上在学	下 水 道 工 学	9 (4.5)	4 (2)	2 (1)	4 (2)		
	国 土 建 設 学 院	上 下 水 道 工 学	—	10 (5)	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—		
	外 国 の 学 校	日本の学校による学歴、経験年数に準ずる。							
指 定 講 習	国 土 交 通 大 学 校	専 門 課 程 下 水 道 科 研 修	—	—	5 (2.5)	2.5 (1.5)	—		
第7号	日本下水道事業団法施行令第4条第1項に定める技術検定	第 1 種 技 術 検 定 合 格	—	—	5 (1.5)	2 (0.5)	1 (0)	—	
		第 2 種 技 術 検 定 合 格	—	—	—	2 (0.5)	1 (0)	—	
		第 3 種 技 術 検 定 合 格	—	—	—	—	—	2 (0)	
第8号	技術士法による本試験	科目として下水道を選択し水道部門に合格した者	—	—	—	0 (0)	0 (0)		
		科目として水質管理又は汚物処理を選択し衛生工学部門に合格した者	—	—	—	—	0 (0)		

(注) 1表記例



<関連インフラ>

- ・計画設計及び実施設計・工事の監督管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、河川、道路
- ・維持管理の場合
～下水道、上水道、工業用水道、し尿処理施設

2 「計画設計」とは、事業計画に定めるべき事項に関する基本的な設計をいう。

3 「監督管理等」とは、実施設計（計画設計に基づく具体的な設計）又は工事の監督管理（その者の責任において工事を設計図書と照合し、それが設計図書の通りに実施されているかどうかを確認する事。）をいう。

平成29年度 研修実施計画

【戸田研修】

コース	専攻名	専攻区分	クラス	研修期間	研修回数	受講料(円)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月		
計画設計	下水道事業入門	官	初	4	1	128,200													
	■ 下水道事業の計画の策定・見直し	官	中	5	1	139,700													
	総合的な雨水対策	官	中	5	1	139,700													
	浸水シミュレーション演習	官	特	1	1	29,800													
	● アセットマネジメント・ストックマネジメント(入門編)	官	特	2	1	59,500													
	■ アセットマネジメント・ストックマネジメント(実務編)	官	特	4	1	128,200													
	● アセットマネジメント・ストックマネジメント(管理音響)	官	特	2	1	29,800													
	● 下水道事業の広域化	官	特	2	1	59,500													
	■ 下水道事業における危機管理	官	特	4	1	128,200													
	初歩的な包括的民間委託の導入と課題	官	中	4	1	128,200													
	下水道の経営	官	中	4	1	128,200													
	経営	企業会計一移行の準備と手続き	官	中	5	2	139,700												
● 下水道経営の広域化		官	中	3	1	116,800													
■ 消費税		官	中	4	1	128,200													
下水道使用料		官	中	4	1	128,200													
受益者負担金		官	中	5	1	139,700													
滞納対策		官	特	4	1	128,200													
接続・水洗促進と情報公開		官	中	5	1	139,700													
管きよ設計I		官	初	12	4	194,700													
管きよ設計II		官	中(特)	17	5	222,000													
推進工法		官	中	10	2	174,000													
管更生の設計と施工管理		官	中	5	3	139,700													
実施設計		設計照査(念計検査)	官	中	5	1	139,700												
	排水設備工事の実務	官	特	4	1	128,200													
	■ 処理場設計I	官	初	5	1	139,700													
	■ 処理場設計II	官	中(特)	12	1	194,700													
	処理場設備の設計(構構設備)	官	中	5	1	139,700													
	処理場設備の設計(電気設備)	官	中	5	1	139,700													
	■ ストックマネジメント計画に基づく設備の改善更新	官	中	3	1	116,800													
	工事管理	工事管理	官	中(特)	11	1	185,500												
		管きよの維持管理	官	初	12	2	185,500												
		管きよの点検・調査	官	特	5	1	139,700												
		■ 処理場管理I(構築編)	官	初	4	2	128,200												
		■ 処理場管理I(構築編+実務編)	官	初	11	2	185,500												
■ 処理場管理I(実務編)		官	中	5	2	57,300													
■ 処理場管理II		官	中(特)	10	2	174,000													
電気設備の保守管理		官	中	3	1	116,800													
維持管理		水質管理I	官	初	10	1	174,000												
		水質管理II	官	中	5	1	139,700												
		水質管理III	官	特	5	1	139,700												
		事業場排水対策	官	中	10	1	174,000												
	包括的民間委託における履行確認	官	特	2	1	59,500													
	■ 水処理施設の管理指標の活かし方	官	特	2	1	59,500													
	■ 水質管理のトラブル対応	官	特	2	1	59,500													
	国際展開	下水道国際水ビジネス・国際展開	官	特	1	1	29,800												
		注1. 受講料の他に宿泊費として泊あたり4,400円(消費税別)が必要になります。なお、4,400円には受講料1,730円(消費税450円+昼食550円+夕食730円)が含まれています。																	

注1. 受講料の他に宿泊費として泊あたり4,400円(消費税別)が必要になります。なお、4,400円には受講料1,730円(消費税450円+昼食550円+夕食730円)が含まれています。

注2. クラス編の初・中・特は、初級クラス、中級クラス、特別クラスを、(指)は、指定講座を示します。

注3. 「官」のコースは地方公共団体職員のみを対象、「官民」のコースは地方公共団体職員及び民間事業者を対象としたコースです。

注4. 「官」のコースは、第1回が「官のみ」、第2回が「官のみ」、第3回が「官のみ」、第4回が「官民」となります。

注5. 「官民」のコースは、第1回が「官のみ」、第2回が「官のみ」、第3回が「官のみ」、第4回が「官民」となります。

注6. 各専攻とも申込者が10名を下回る場合は、開催しない場合がありますのでご了承ください。

注7. 「処理場管理I(実務編)」の受講に当たっては、事前に当該専攻の講義編を受講していることが条件となります。

研修センターのあゆみ

昭和 47年	11・1 下水道事業センター発足 初代研修部長 岩崎 保久就任	平成 7年	7・5 総合実習棟竣工
昭和 48年	2・6 研修部で研修開始 5・ プレハブ校舎完成 12・27 試験研修本館着工	平成 8年	4・1 第12代研修部長 竹石 和夫就任
昭和 49年	1・16 研修会報(研修みずのわ)創刊 12・1 第2代研修部長 丸山 速夫就任	平成 9年	3・20 本館改修工事竣工 9・29 研修修了生3万人達成 11・1 事業団設立25周年を迎える
昭和 50年	3・25 試験研修本館竣工 4・16 初代試験研修本部長 池田 一郎就任 8・1 日本下水道事業団発足 第2代本部長 岡崎 忠郎就任	平成 10年	3・24 研修業務報告会開催 7・14 第11代本部長 黒沢 宥就任 8・1 参与 内田 信一郎就任
昭和 51年	3・14 第1回下水道技術検定試験実施 8・1 第3代研修部長 橋本 定雄就任 11・21 第2回検定試験実施(以後毎年11月 中旬実施)	平成 11年	4・1 第13代研修部長 大嶋 吉雄就任
昭和 52年	2・16 第3代本部長 上田 伯雄就任 4・1 第4代研修部長 武田 篤夫就任	平成 13年	1・20 第12代本部長 中橋 芳弘就任 4・16 参与 福智 真和就任
昭和 53年	4・1 第4代本部長 遠藤 文夫就任 11・16 常任参与 安田 靖一就任	平成 14年	4・1 第15代研修部長 篠田 孝就任 11・1 研修修了生4万人達成 事業団設立30周年を迎える
昭和 54年	6・9 第5代研修部長 野端 利治就任	平成 15年	4・16 参与 色摩 勝司就任 10・1 「特殊法人整理合理化計画」に基づき、 日本下水道事業団が地方共同法人となる
昭和 55年	10・1 第5代本部長 卜部 壮一就任	平成 16年	4・1 機構改革により「研修センター」発足 第16代研修センター所長 大嶋 篤就任
昭和 56年	3・31 研修修了生(延べ)7, 603人となる	平成 17年	4・1 第17代研修センター所長 成田 愛世就任 8・1 第13代本部長 安藤 明就任 10・21 研修生4万5千人達成
昭和 57年	6・5 第6代研修部長 伊阪 重信就任 11・1 事業団設立10周年を迎える	平成 19年	4・1 第18代研修センター所長 高島英二郎就任
昭和 58年	4・1 常任参与 藤井 秀夫就任 8・29 研修修了生1万人達成 11・16 第6代本部長 中村 瑞夫就任	平成 20年	1・19 研修修了生5万人達成 1・30 研修修了生5万人達成記念行事開催
昭和 59年	4・12 試験研修本部を技術開発研修本部 に名称変更する。 4・27 第1回「研修部OB会」開催	平成 21年	7・14 第19代研修センター所長 藤生 和也就任
昭和 60年	1・1 第7代研修部長 真船 雍夫就任 3・27 新厚生棟完成	平成 22年	4・1 第14代本部長 村上 孝雄就任 4・22 研修修了生5万5千人達成 6・10 本館耐震化工事着手 8・3 研修業務検討委員会設置 3・11 東日本大震災
昭和 61年	4・25 第2回「研修部OB会」開催 10・1 第7代本部長 苔米地 行三就任	平成 23年	4・1 機構改革により技術開発研修本部長を廃止し、 研修・国際担当理事を設置。 初代理事 村上 孝雄就任 4・1 国際展開コース新設 9・21 臨時研修「地震対策」実施
昭和 62年	3・31 研修修了生(延べ)14, 311人となる	平成 24年	4・17 研修修了生60, 000人達成 11・1 事業団設立40周年を迎える 11・22 臨時研修「放射能対策」実施 3・29 本館耐震化工事終了
昭和 63年	1・1 第8代研修部長 石川 廣就任 4・1 第8代本部長 千葉 武就任 4・28 第3回「研修部OB会」開催	平成 25年	4・1 第20代研修センター所長 藤本 裕之就任 11・1 第2代研修・国際担当理事 野村 充伸就任
平成 元年	9・1 常任参与 村上 仁就任	平成 26年	4・1 第21代研修センター所長 花輪 健二就任
平成 2年	3・31 本館改修工事竣工 6・11 第9代研修部長 亀田 泰武就任 10・8 第4回「研修部OB会」開催	平成 27年	11・1 第3代研修・国際及び西日本担当理事 畑田 正憲就任
平成 3年	7・16 第10代研修部長 石川 忠男就任 7・26 研修修了生2万人達成	平成 28年	4・1 第22代研修センター所長 細川 顕仁就任 7・1 研修修了生70, 000人達成
平成 4年	4・1 第9代本部長 清野 圭造就任 4・1 第11代研修部長 星隈 保夫就任 11・1 事業団設立20周年を迎える		
平成 5年	3・26 第5回「研修OB会」開催 7・1 常任参与 北井 克彦就任		
平成 6年	7・1 第10代本部長 小林 紘就任 10・7 研修修了生2万5千人達成		

〈裏表紙の写真〉日本下水道事業団研修センターの総合実習棟と JS バス

撮影地：埼玉県戸田市

～編 集 後 記～

▼昭和 48 年 2 月に研修を開始して以来 44 年目を迎え、昨年度末までの研修生総数は 69,329 人となり、今年度 7 月 1 日に修了した実施設計コース 処理場設備の設計（電気設備）において、下水道技術研修の研修生 7 万人を達成いたしました。これもひとえに、皆様のご支援とご指導の賜物と、深く感謝しております。

▼【みずのわ】は、数多くの研修 OB の方に支えられて発行を続けております。ご多忙の中、研修へのエール、受講当時の思い出等多くのご寄稿をいただきありがとうございました。本号に掲載できなかった数多くの方々の声をこれからも伝えていきたいと思っております。

▼今後とも皆様に支持される魅力ある研修であり続けられるよう職員一丸となって努力して参ります。一層のご支援、ご活用のほどよろしく願いいたします。



機関誌「みずのわ」第50号

平成29年1月発行 第50号

発行／地方共同法人 日本下水道事業団 研修センター
〒335-0037 埼玉県戸田市下笹目5141
TEL：048-421-2692
FAX：048-422-3326

印刷／株式会社 サンワ